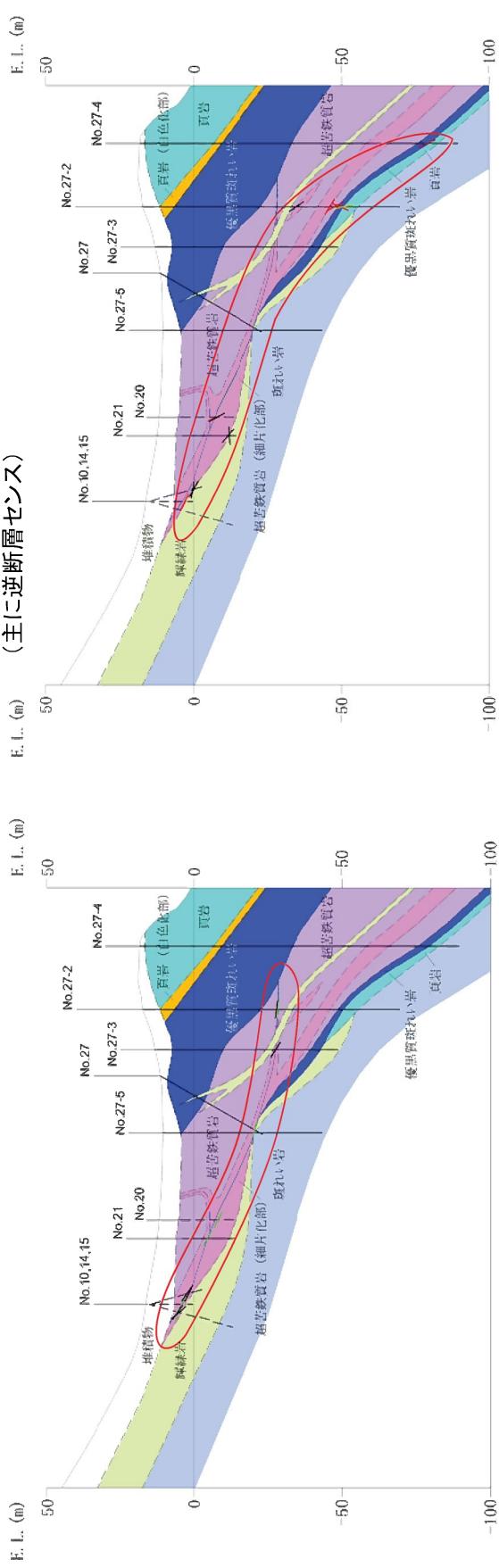
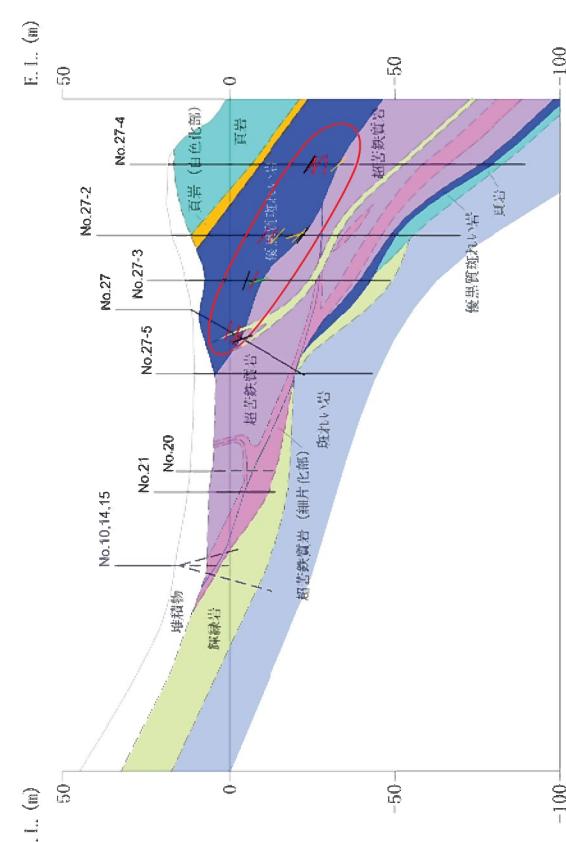


#### A. 超苦鉄質岩(細片化部)中に正断層センスの破碎部

B.超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部

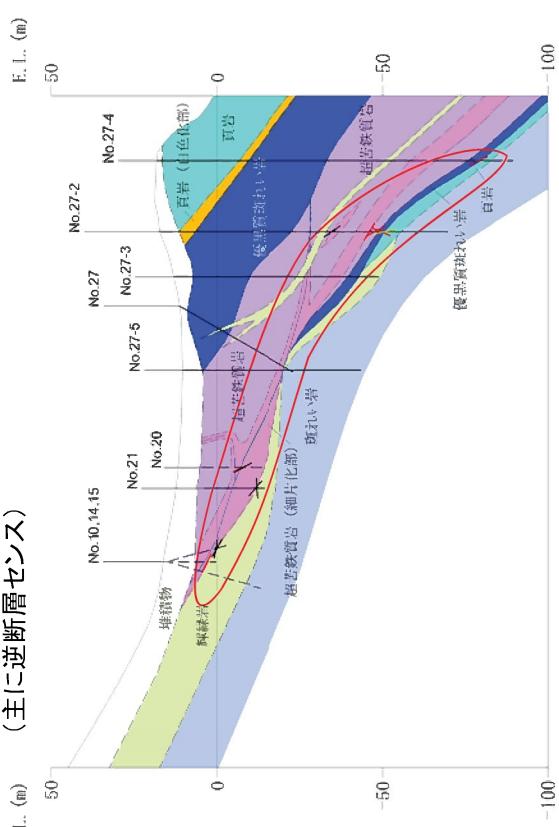


### C. 優黒質斑れい岩中の破碎部

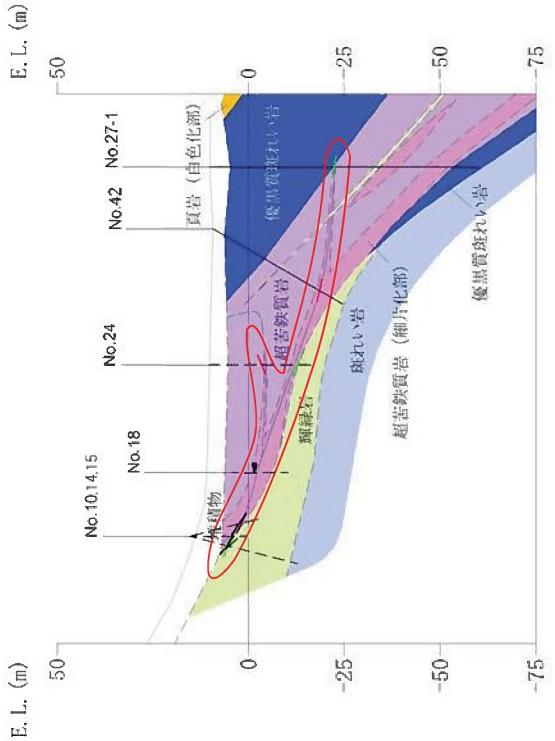


B.超苦鉄質岩下部の貫入  
(主に逆断層センス)

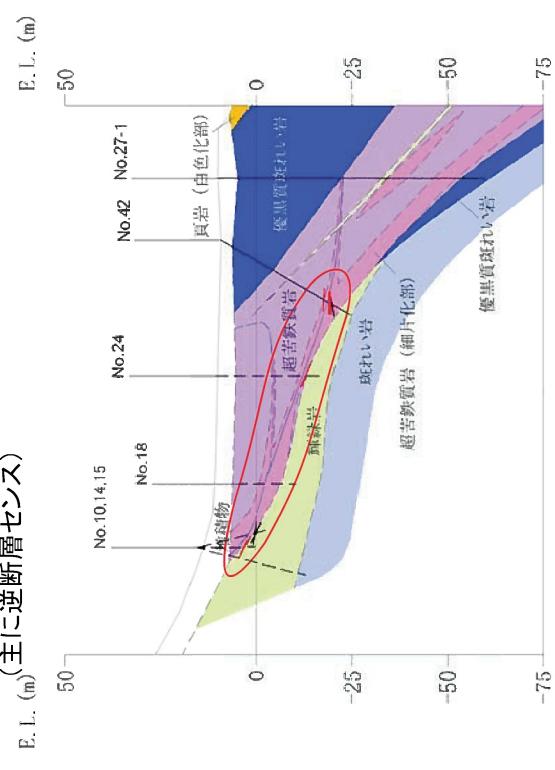
B.超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部  
(主に逆断層センス)



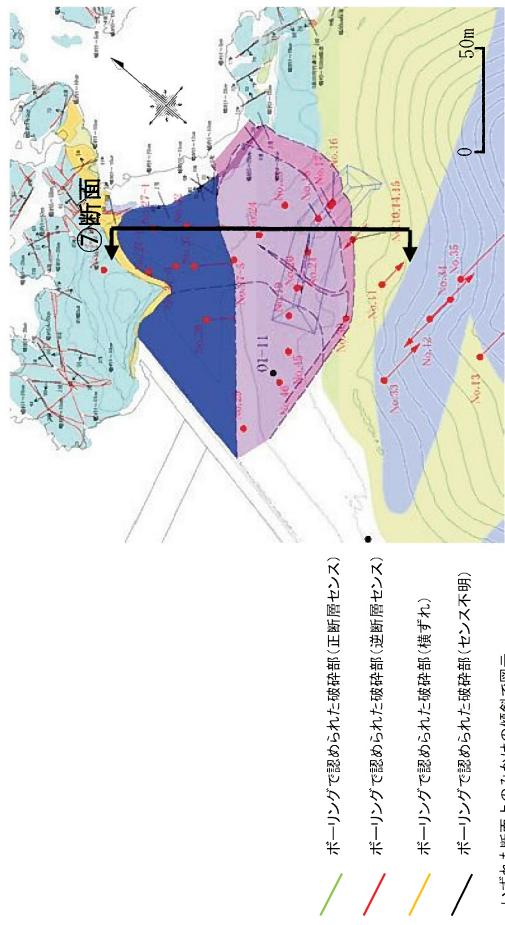
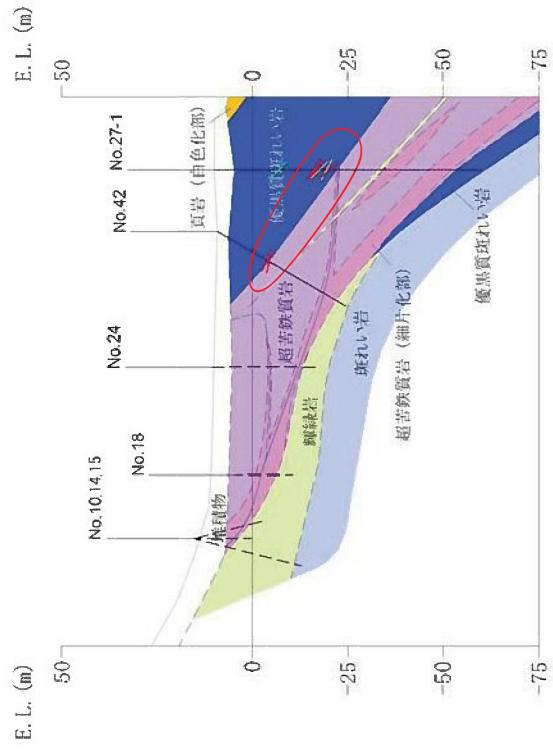
A. 超苦鉄質岩(細片化部)中の主に正断層センスの破碎部



B. 超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部

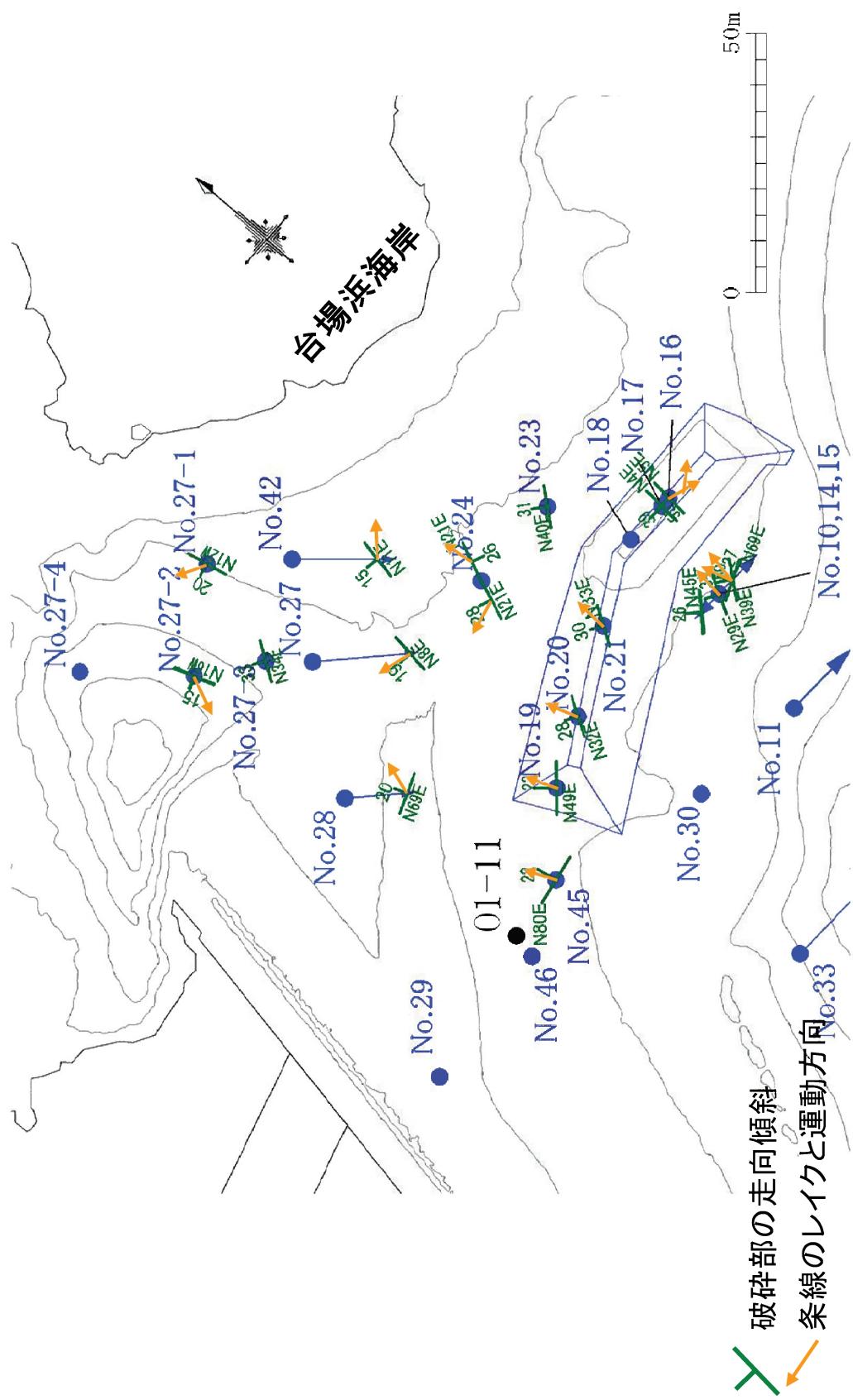


C. 優黒質斑れい岩中の破碎部

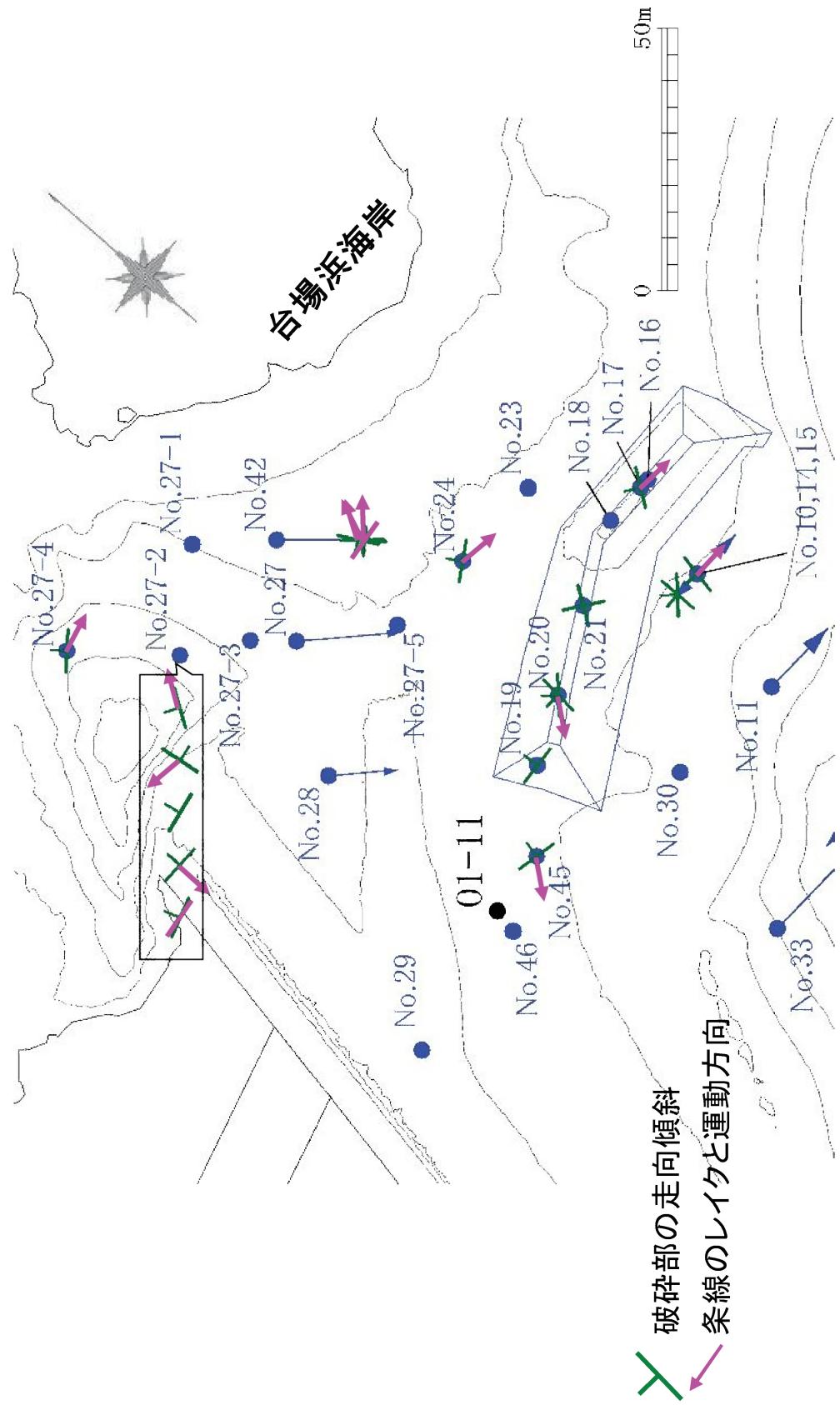


第1.2.3.3.18図(2) 台場浜の超苦鉄質岩周辺の破碎部の分類 (⑦断面)

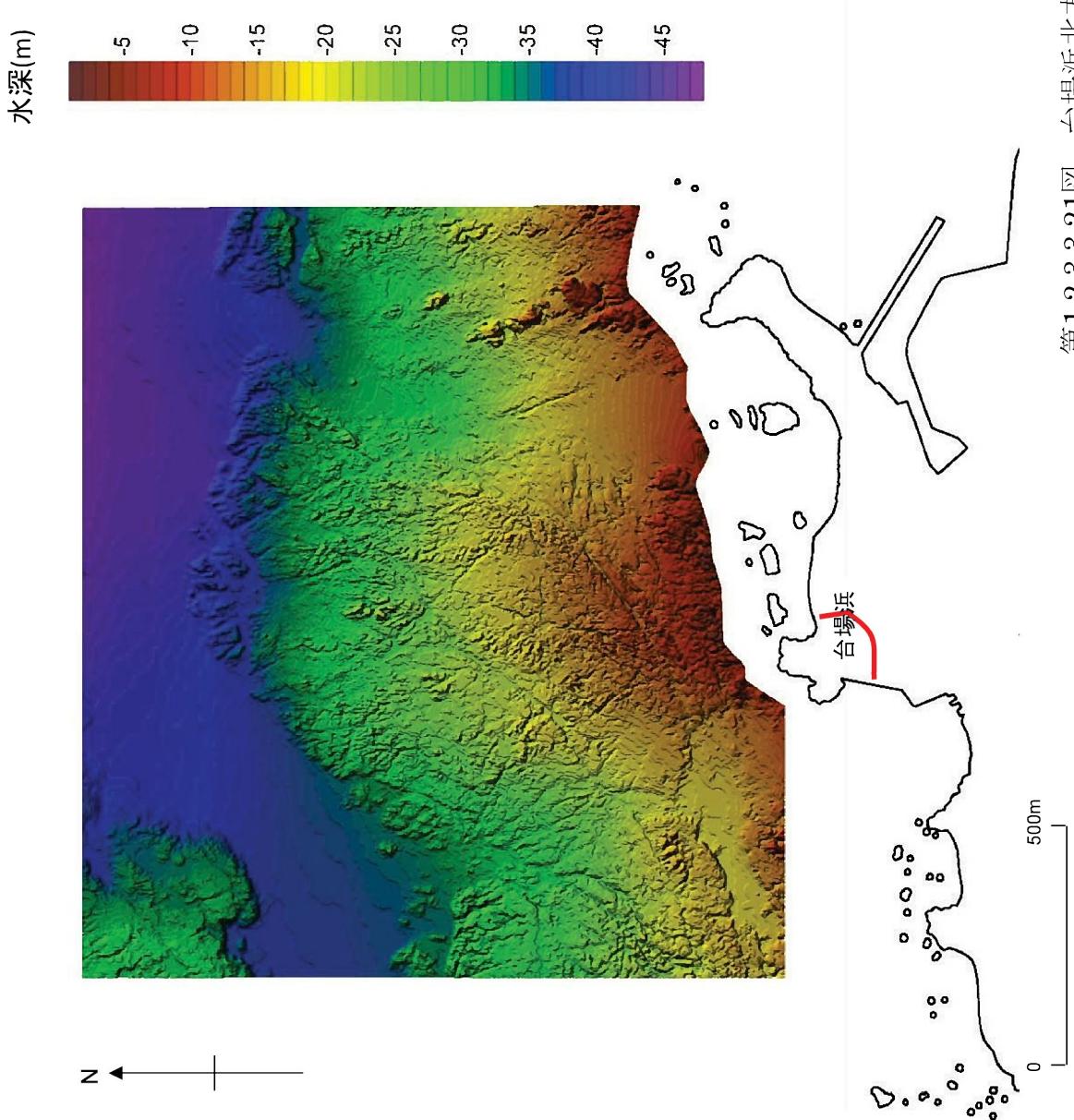
第1.2.3.3.19図 「A.超苦鉄質岩（細片化部）中の主に正断層セグメントの破碎部」の平面運動方向



第1.2.3.3.20図 「B.超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーン」で認められる破碎部（主に逆断層セグメント）の平面運動方向



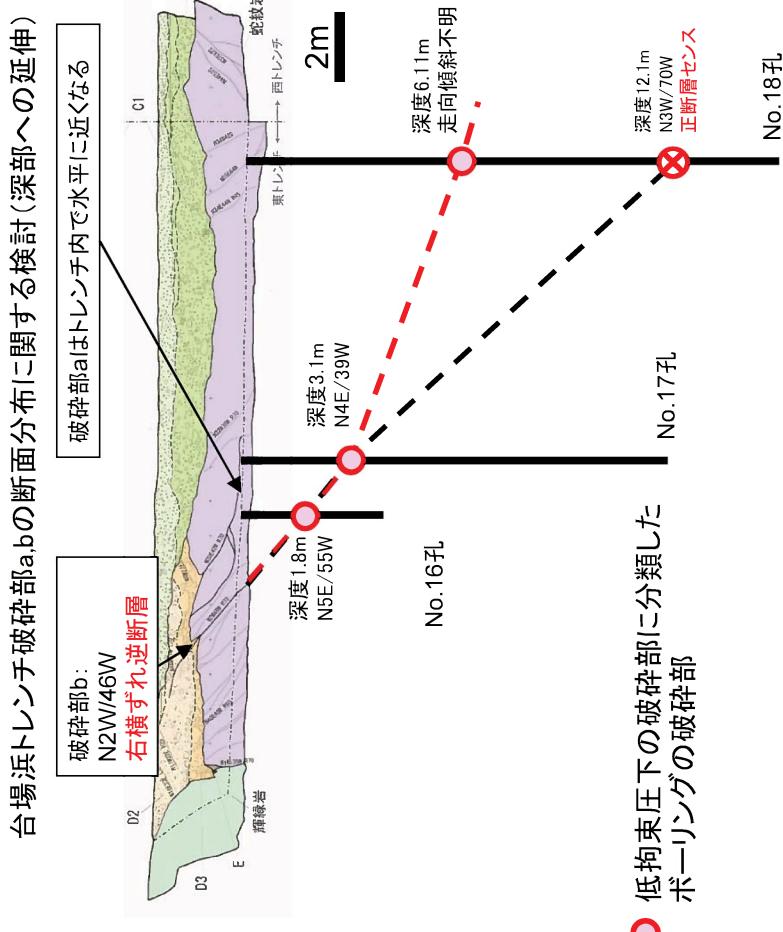
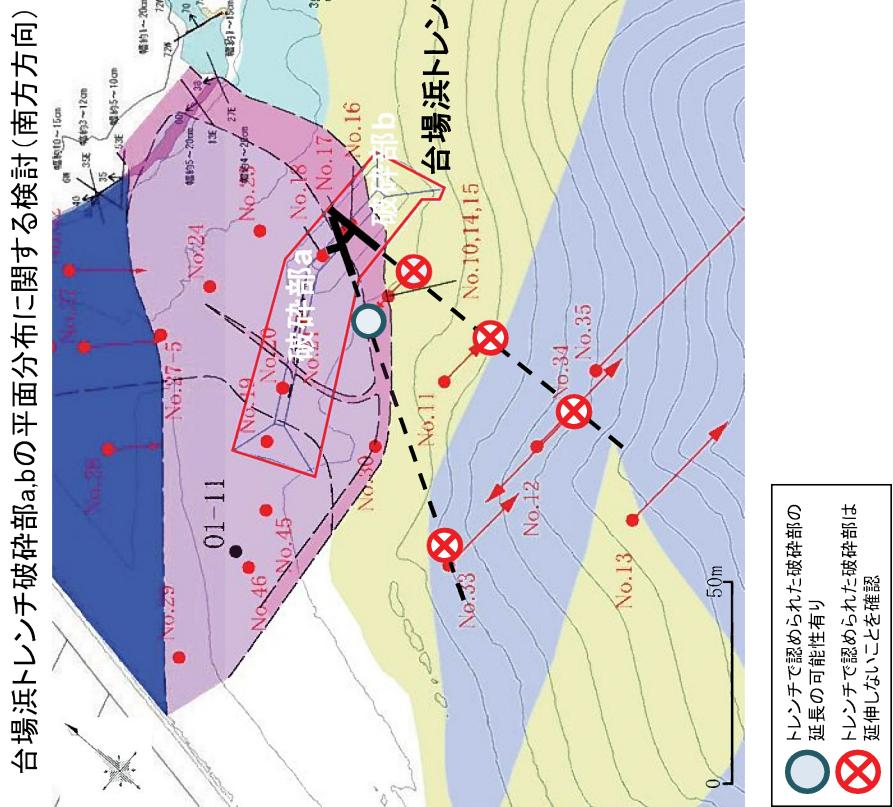
第1.2.3.3.21図 台場浜北方の海底地形調査結果



分類	破碎部の特徴	分布・活動性等に關する特徴	
		調査結果	評価
A 超苦鉄質岩（細片化部）中の正断層センスの破碎部	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に正断層センス</li> <li>断層（テクトニック）としての特徴が認められず、低拘束圧下における破碎部と考えられる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボーリング調査結果から破碎部の連續性を検討すると、延長部のNo. 27-4孔には調和的な破碎部は無い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地下深部へは連続せず、超苦鉄質岩（細片化部）中にのみ局所的に分布する。</li> </ul>
B 超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部（主に逆断層センス）	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に逆断層センス</li> <li>破碎部付近は明瞭な複合面構造を有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>破碎部観察、条線観察結果から、各破碎部の運動方向は全体としては一様ではなく、粘土を伴わない破碎部も多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全体が一つの断层面を成すものではなく、連続性に乏しい断層である可能性がある。</li> <li>全体を1枚の断层面と仮定した場合には、ある広域応力場において全体が一様に活動したものではなく、局所的な運動によって活動したものと考えられる。</li> </ul>
C 優黒質斑れい岩中の破碎部	<ul style="list-style-type: none"> <li>破碎部の走向は主にNE-SW</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海底地形調査から、周囲の海底地形に変動地形は認められない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海底地形を変形させるような新しい活動は無い。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>海底地形調査から、北方海域の破碎部延長付近には、海底地形に変動地形は認められない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>破碎部は沖合まで延伸しない、もしくは海底地形を変形させるような新しい活動は無い。</li> </ul>

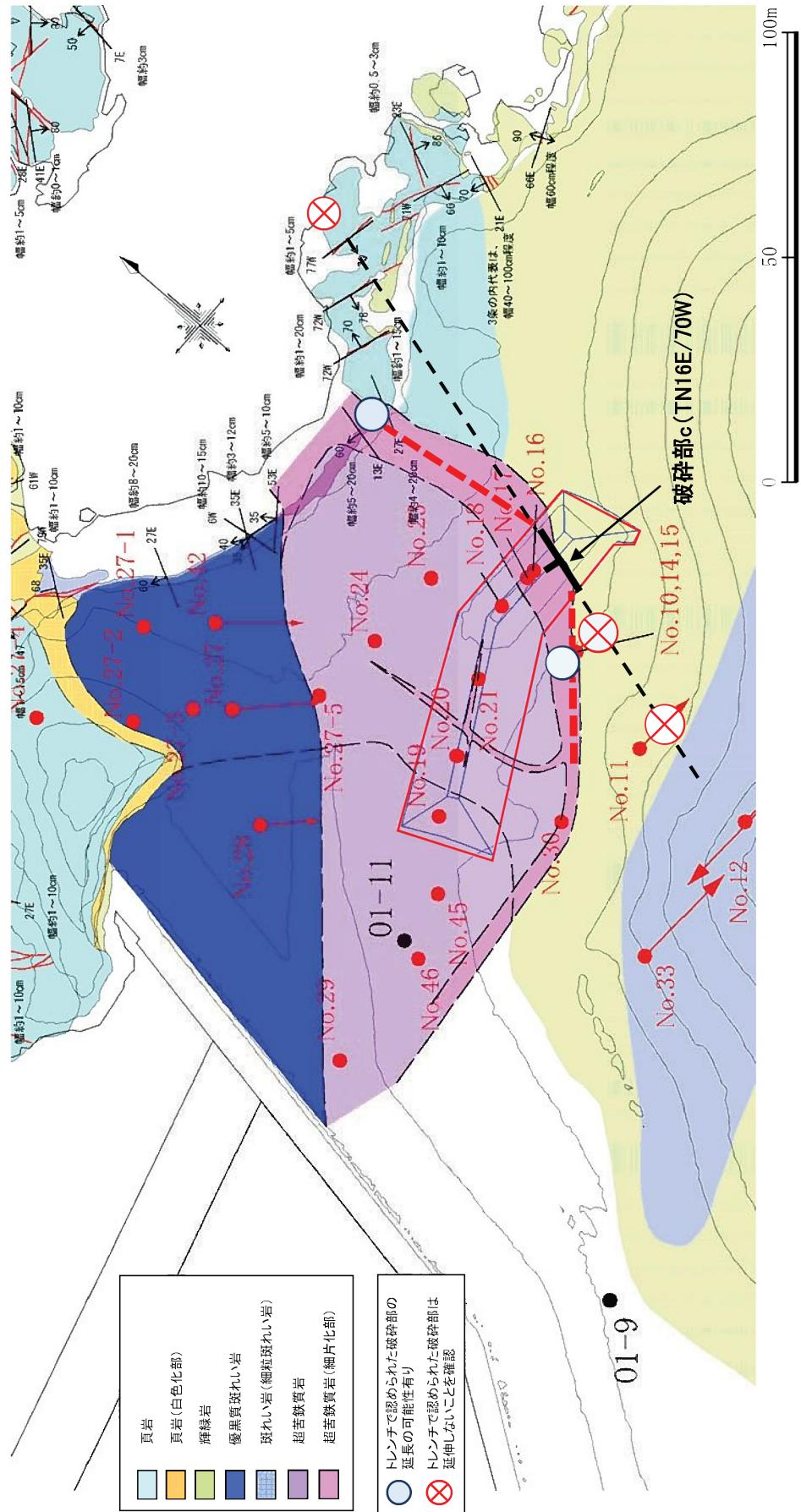
これらはいずれも震源として考慮する活断層ではないと評価する。

第1.2.3.3.22図 台場浜の超苦鉄質岩周辺の破碎部の分類と評価



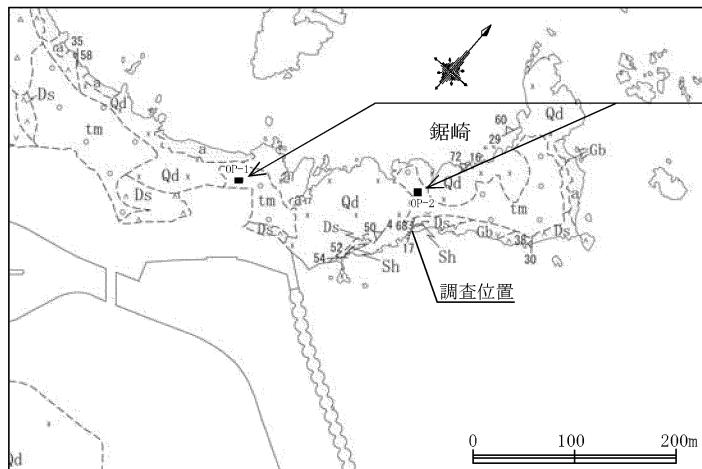
第1.2.3.3.23図 台場浜トレンチ破碎部a,b の連続性検討結果

### 第1.2.3.3.24 図 台場浜トレノチ破砕部c の連続性検討結果



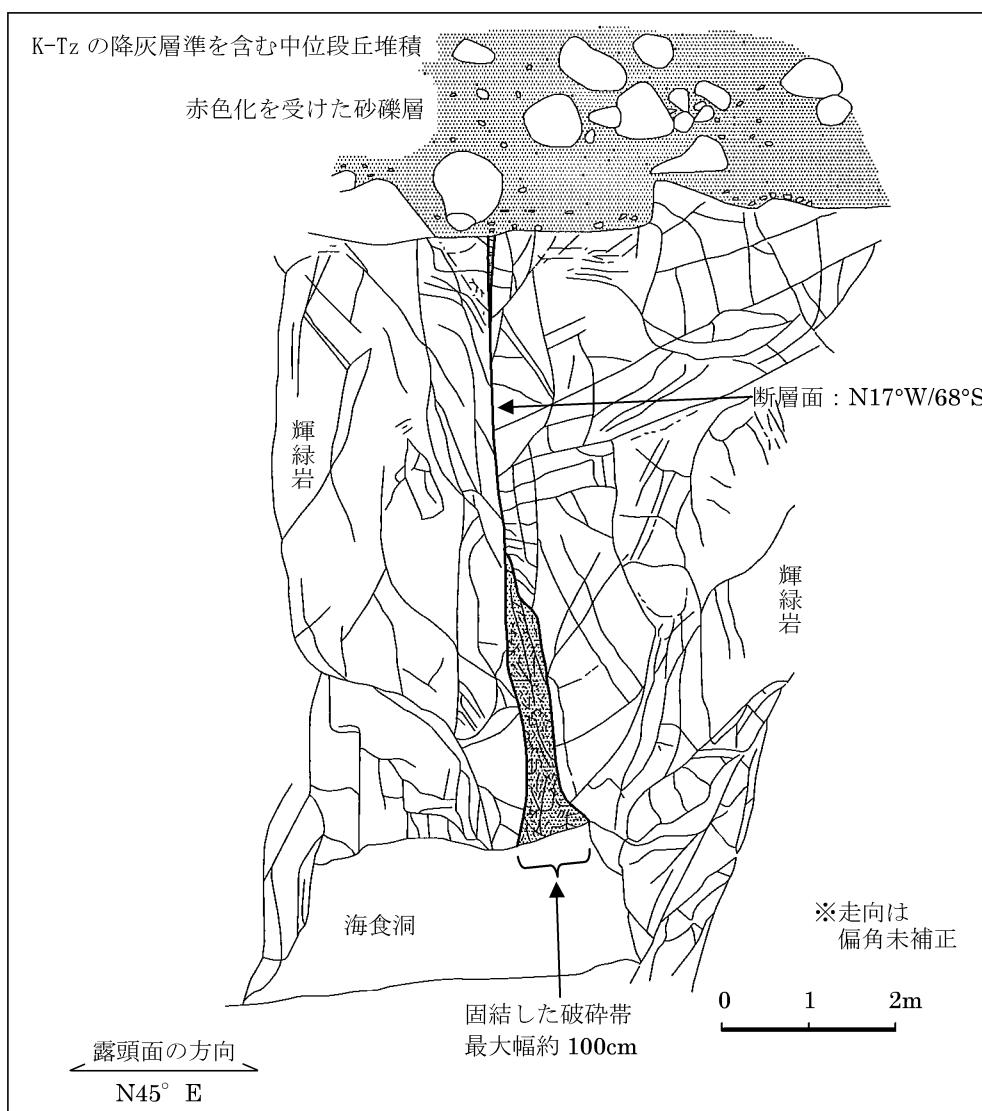
台場浜 トレンチの 破碎部	破碎部a, b  破碎部c	トレンチに おける 観察結果等  平面分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>破碎部a, bと西トレンチ底盤の破碎部は一対のもので地すべりによるものと考えられる。</li> <li>直線的に南方へ延伸しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>破碎部cは超苦鉄質岩と輝緑岩の境界付近の超苦鉄質岩中に分布し、E層堆積以降活動していないと考えられる。</li> <li>直線的に延伸せず、湾曲して超苦鉄質岩と輝緑岩・頁岩の境界付近の超苦鉄質岩中に分布すると考えられる。</li> <li>ボーリング調査、地表踏査、磁気探査の結果から、超苦鉄質岩の平面分布域は限定的であり、破碎部cの平面分布も限定的であると考えられる。</li> </ul>
超苦鉄質岩周辺の破碎部分類との関係	断面分布  超苦鉄質岩周辺の破碎部の分類における 「A. 超苦鉄質岩（細片化部）中の主に正断層センスの破碎部」 「B. 超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部（主に逆断層センス）」	最新活動時のせん断面は直線的に地下深部へ延伸しない。  超苦鉄質岩周辺の破碎部の分類における 「A. 超苦鉄質岩（細片化部）中の主に正断層センスの破碎部」 「B. 超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部（主に逆断層センス）」	<ul style="list-style-type: none"> <li>断面的には破碎部cが深部へ延伸する場合、超苦鉄質岩周辺の破碎部の分類における</li> <li>「A. 超苦鉄質岩（細片化部）中の主に正断層センスの破碎部」 「B. 超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部（主に逆断層センス）」のいずれかに連続すると考えられるが、A, Bいずれも震源として考慮する活断層ではないと評価。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>断面的には破碎部cが深部へ延伸する場合、超苦鉄質岩周辺の破碎部の分類における</li> <li>「A. 超苦鉄質岩（細片化部）中の主に正断層センスの破碎部」 「B. 超苦鉄質岩下部の貫入の影響ゾーンで認められる破碎部（主に逆断層センス）」のいずれかに連続すると考えられるが、A, Bいずれも震源として考慮する活断層ではないと評価。</li> </ul>
変動地形	変動地形		<ul style="list-style-type: none"> <li>文献には敷地内に活断層、リニアメントは示されていない。</li> <li>発電所建設以前の航空写真、また航空レーザー測量による地形図を用いた地形判読の結果、敷地内にリニアメントを含む変動地形は判読されない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>延長部付近の海底地形に変動地形は認められない。</li> </ul>

台場浜トレンチで認められた破碎部a, b, cは、いざれも震源として考慮する活断層ではないと評価する。



ピット調査により、  
K-Tz の降灰層準を確認

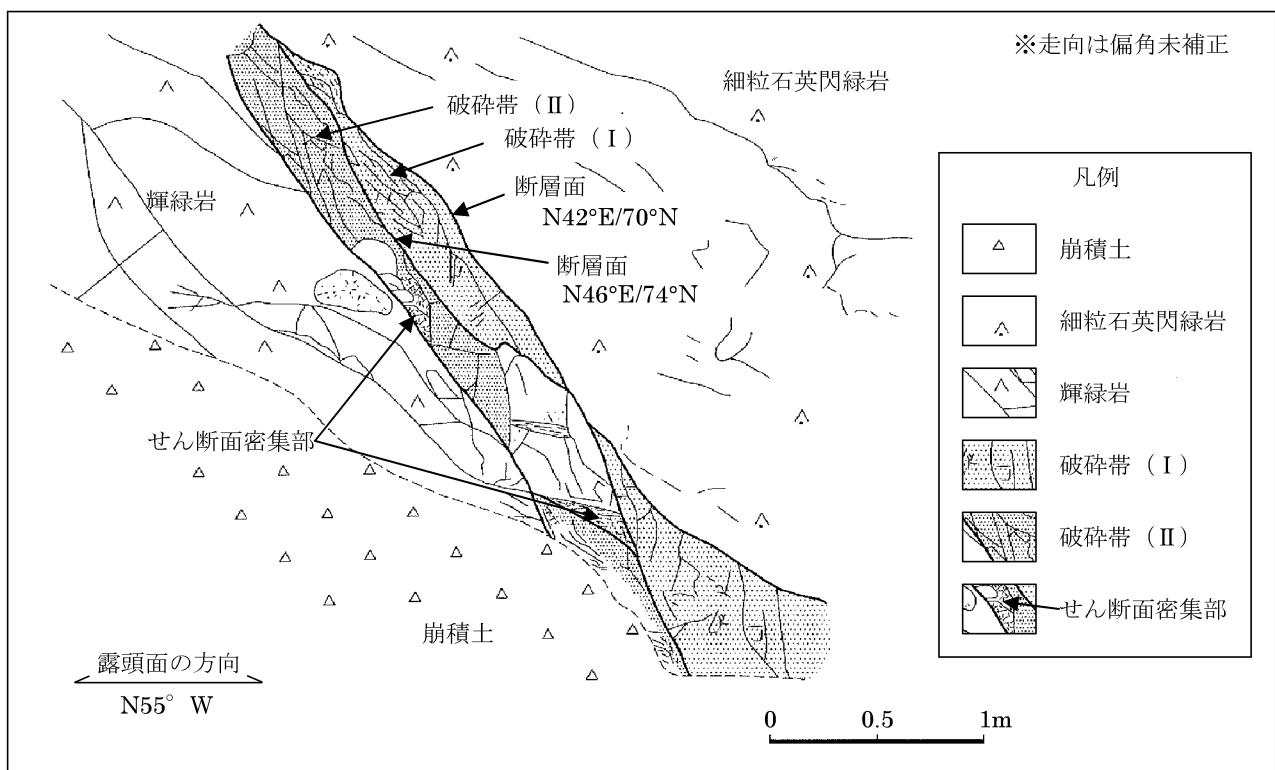
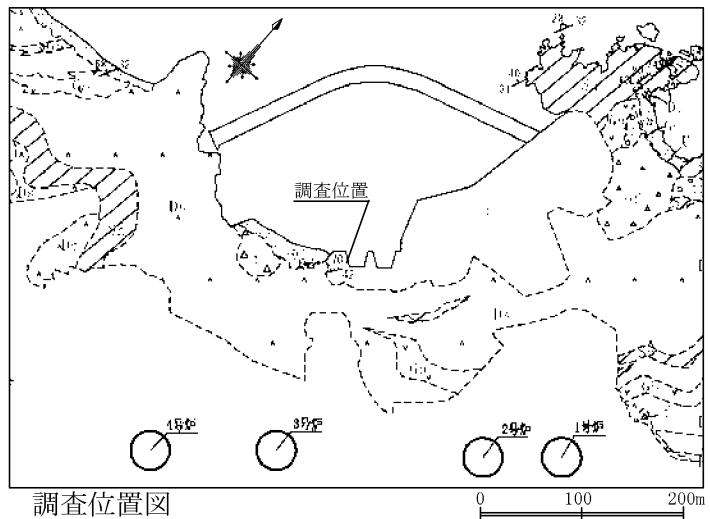
調査位置図



#### 鋸崎海食洞上部の破碎帶

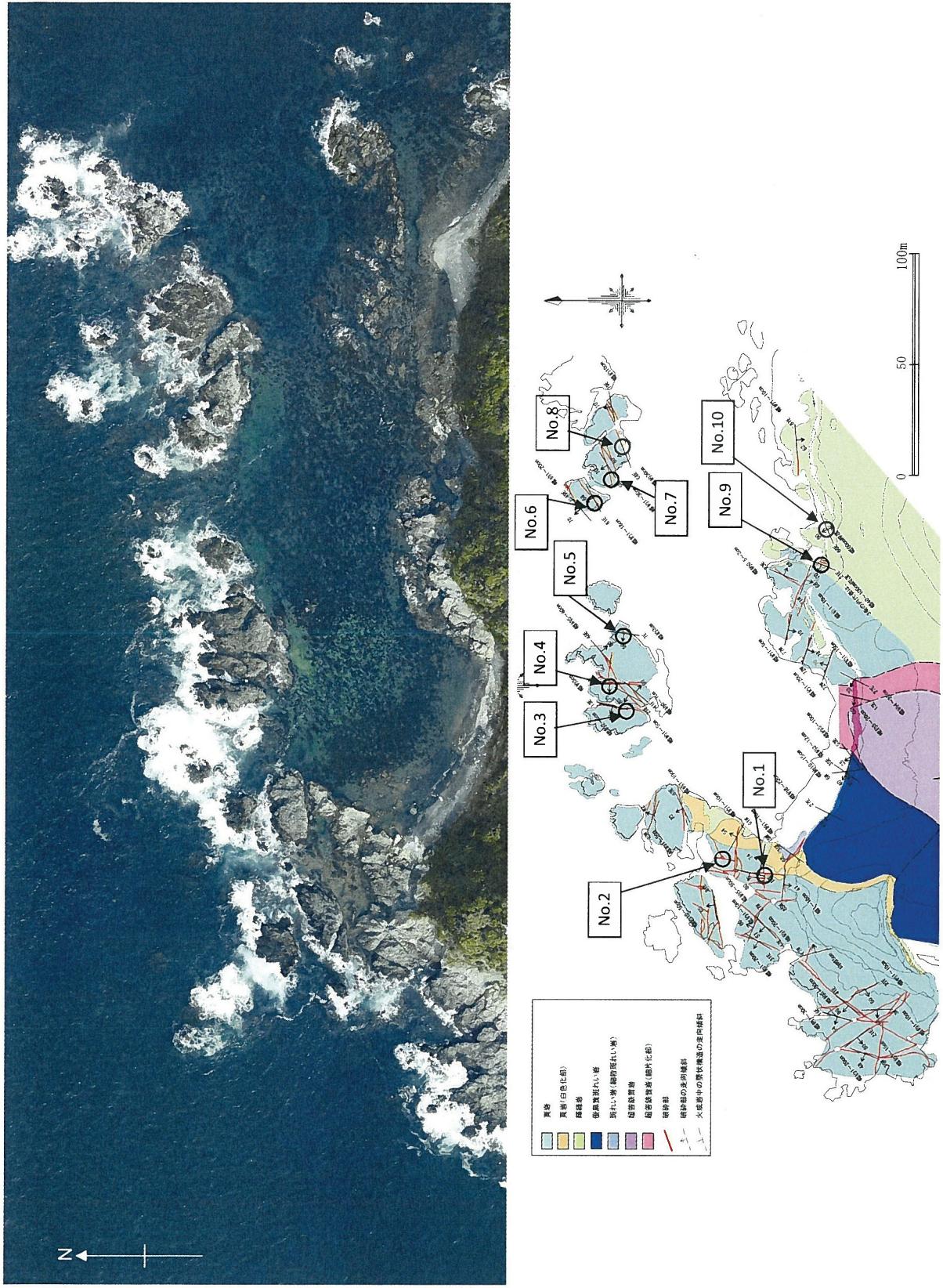
破碎帶は輝綠岩がやや強く破碎され、一部角礫化～細粒破碎物質化しており海食洞上部では最大幅約 1m 程度の部分もある。露頭上部に K-Tz の降灰層準を含む中位段丘堆積物があり、破碎帶はこれに変位を与えていない。

第1.2.3.3.26図 鋸崎海食洞上部の輝綠岩中の破碎帶 露頭スケッチ

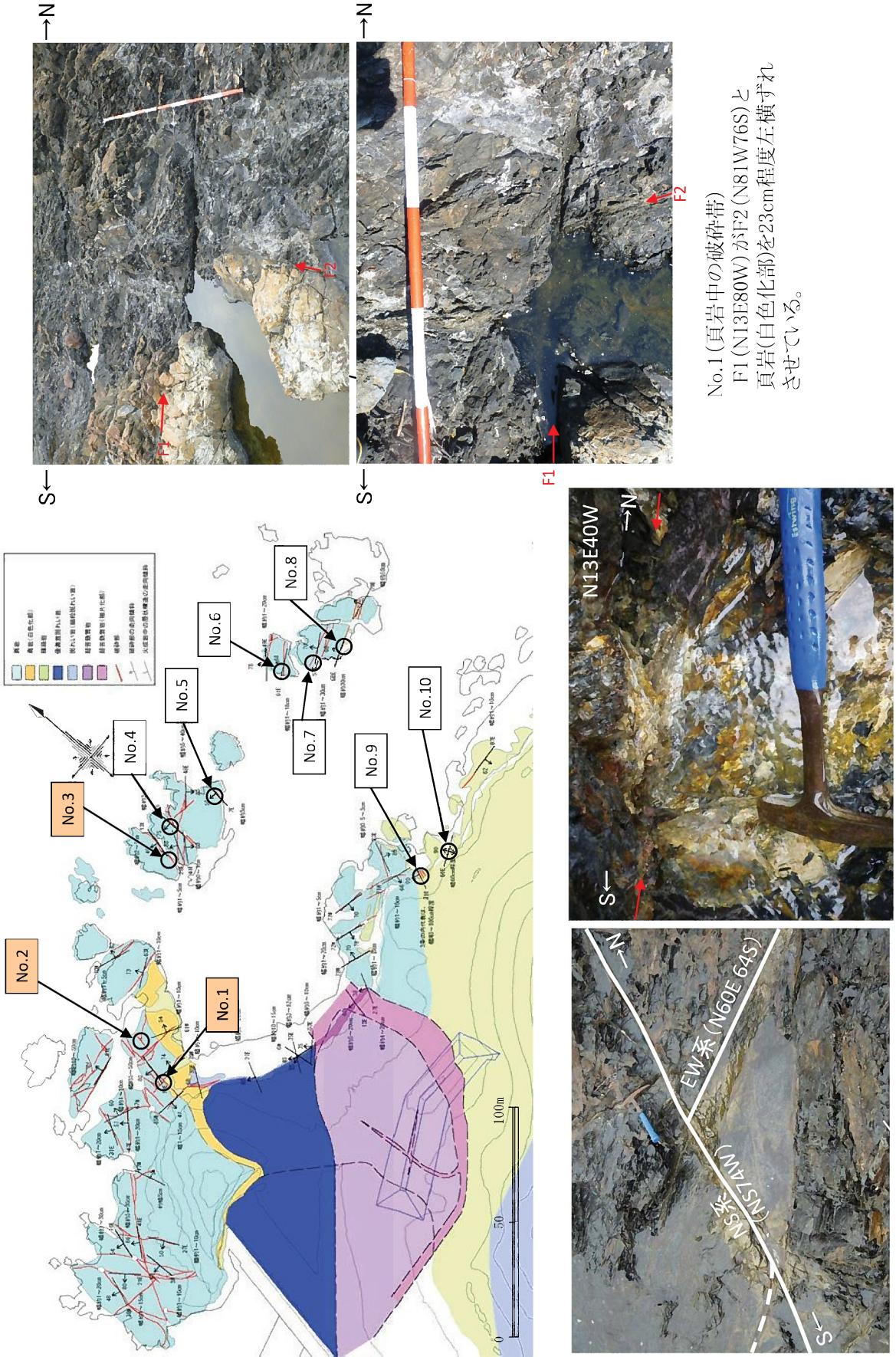


放水口西側の破碎帶  
細粒石英閃綠岩と輝綠岩との境界部の固結した破碎帶。破碎帶の見かけの幅は約 1m。  
破碎帶 (I) : レンズ状に引き伸ばされた細粒石英閃綠岩からなる部分 (幅 0.7m)。  
破碎帶 (II) : 粘土基質～細片化した細粒石英閃綠岩からなる部分 (幅 0.3m)。

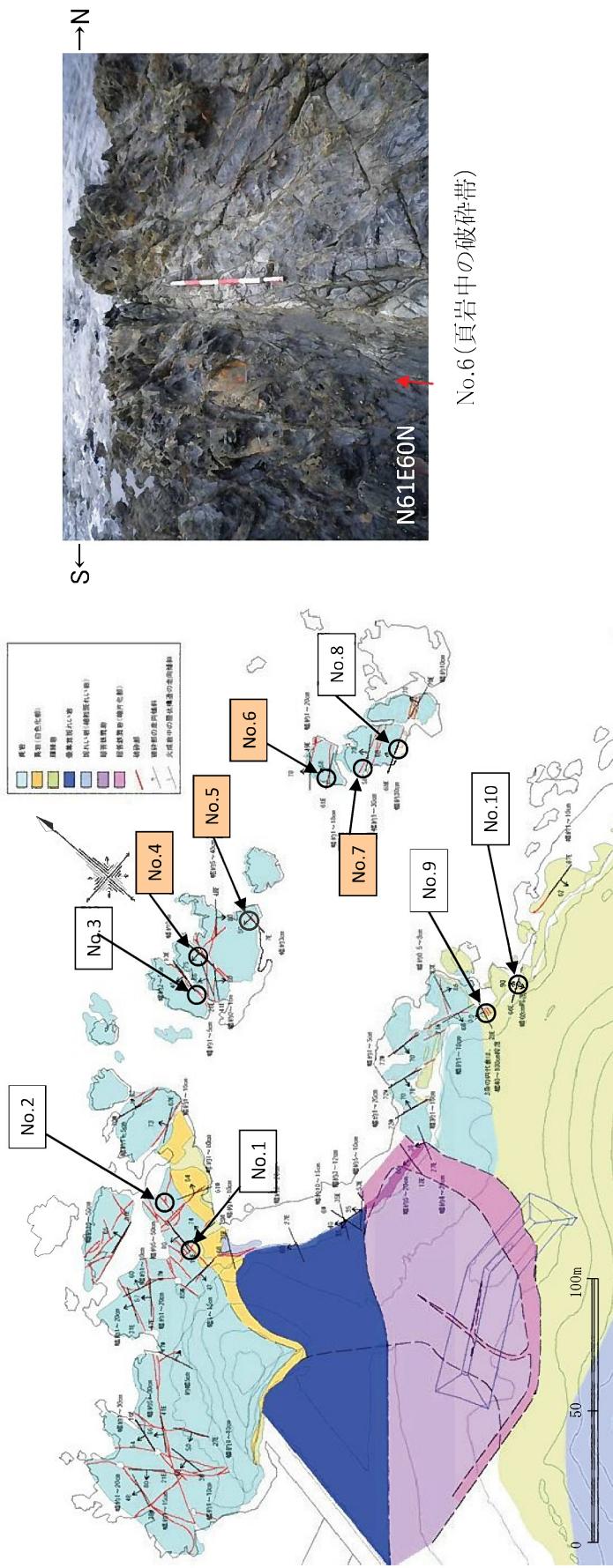
第1.2.3.3.27図 放水口西側の細粒石英閃綠岩と輝綠岩との境界の破碎帶 露頭スケッチ



### 第1.2.3.3.28図(1) 台場浜岩礁付近の航空写真及びルートマップ



第1.2.3.3.28図(2) 台場浜岩礁付近の地表踏査結果 (その1)



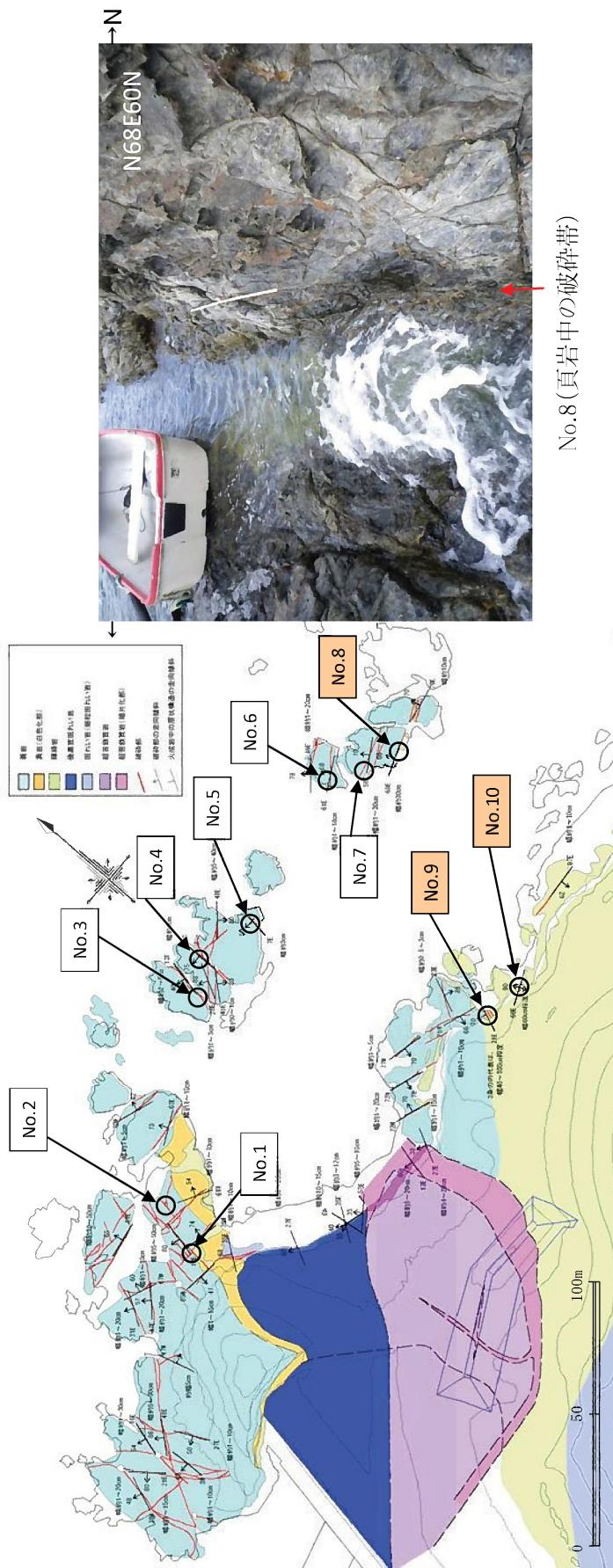
第1.2.3.3.28図(3) 台陽浜岩礁付近の地表踏査結果 (その2)

No.4(貞岩中の破碎帶)

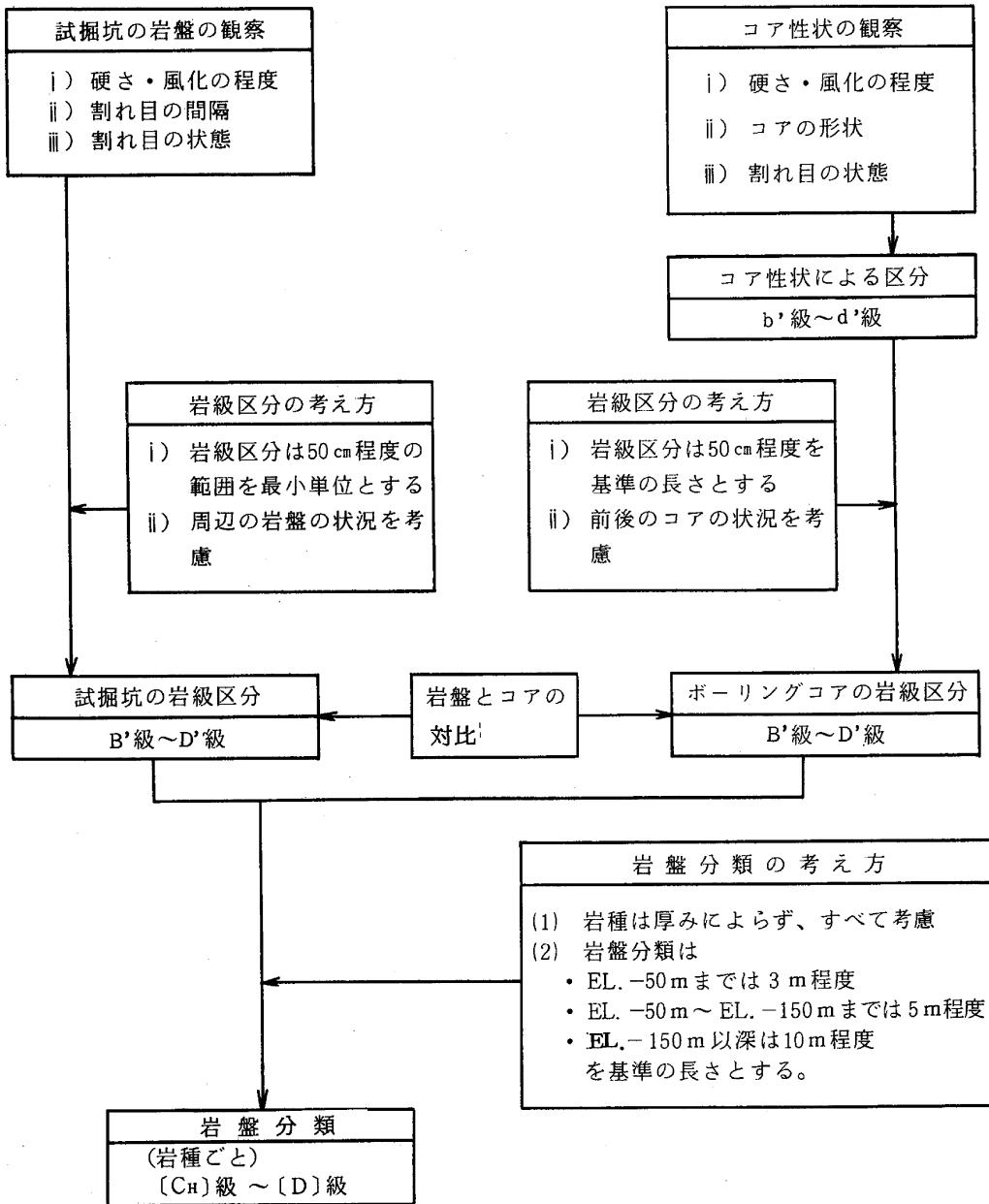
No.5(貞岩中の破碎帶)

No.6(貞岩中の破碎帶)

No.7(貞岩中の破碎帶)



1.2.3-130



第1.2.3.4.3図 岩盤分類の考え方のフロー

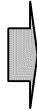
**【原子炉基礎岩盤スケッチを用いた破碎帶の幅と長さの関係に関する検討結果のまとめ】**

- ・幅10cm以上の破碎帶の最大長さは、100m以上になります。
- ・幅3cm以下の破碎帶の最大長さは50m未満。
- ・幅3cmを超えて、10cm未満の破碎帶の最大長さは100m未満。

### 【原子炉基礎岩盤スケッチを用いた破碎帶の切り切られ関係に関する検討結果】

#### (1) 3, 4号炉側(細粒石英閃綠岩)

- ・N-S走向の破碎帶は連続性が高く、NE-SW走向の破碎帶は連続性に乏しい。
- ・NW-SE走向、E-W走向の破碎帶は、一部で連続性が高い場合が認められるが、その分布はN-S走向の破碎帶に規制されている。
- ・F-1～F-4、F-6破碎帶は、N-S走向で100m以上である。
- (2) 1, 2号炉側(輝綠岩)
- ・NE-SW走向とN-S走向の破碎帶の連続性が高い。



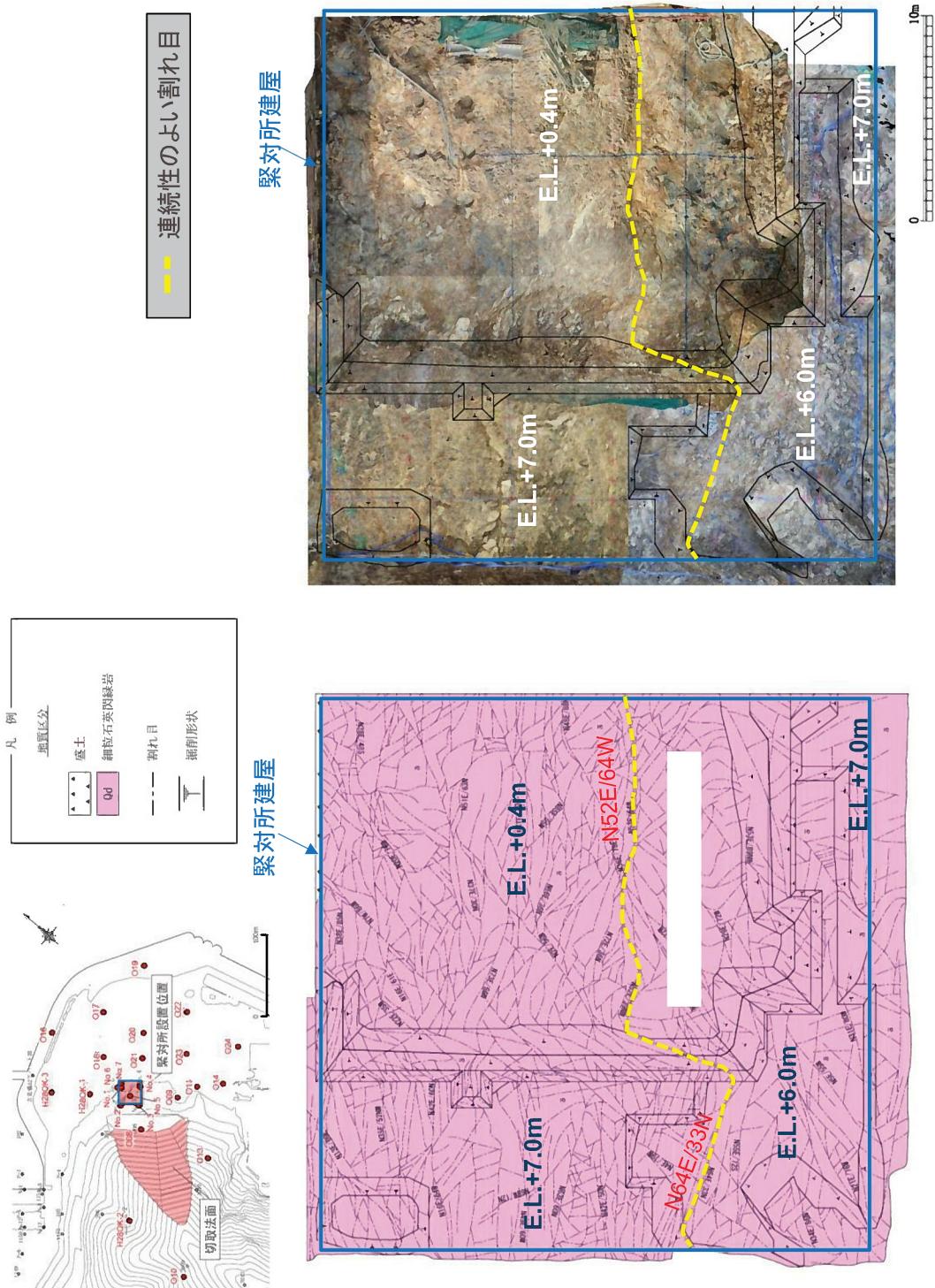
### 【大飯発電所 敷地の破碎帶の特徴】

#### 3, 4号炉側(細粒石英閃綠岩)

破碎帶幅 走向	10cm以上	3cm超～ 10cm未満	3cm以下	3cm超～ 10cm未満	3cm超～ 10cm未満
N-S	100m以上	100m未満	50m未満	100m以上	100m未満
NW-SE	100m未満	100m未満	50m未満	100m未満	100m未満
E-W					
NE-SW					

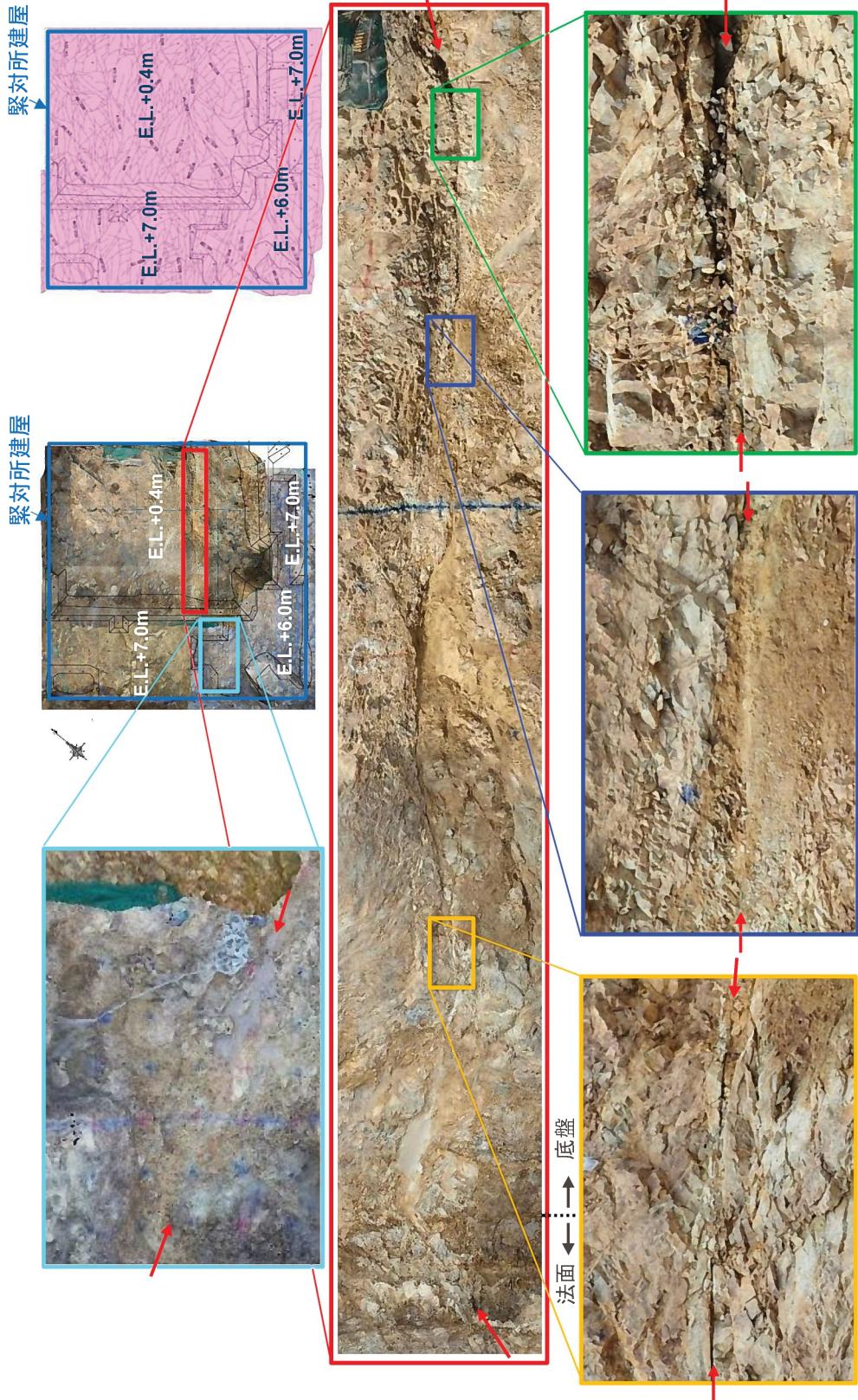
#### 1, 2号炉側(輝綠岩)

破碎帶幅 走向	破碎帶幅 走向	10cm以上	10cm以上	3cm以下
N-S	NE-SW	100m以上	100m未満	50m未満
NW-SE		100m未満		
E-W		100m未満		



- ・建屋基礎掘削面には、細粒石英閃綠岩が分布する。
- ・建屋基礎掘削面には、北東側から南西側にかけて、連続性のよい割れ目が確認される。

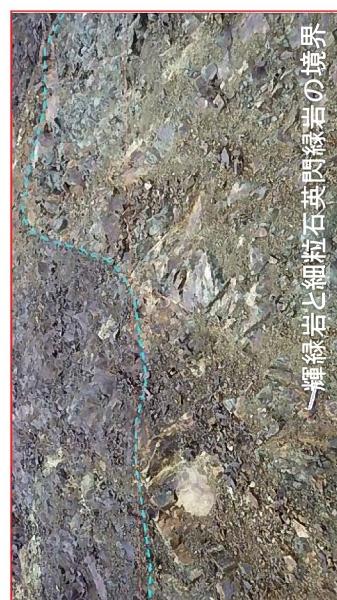
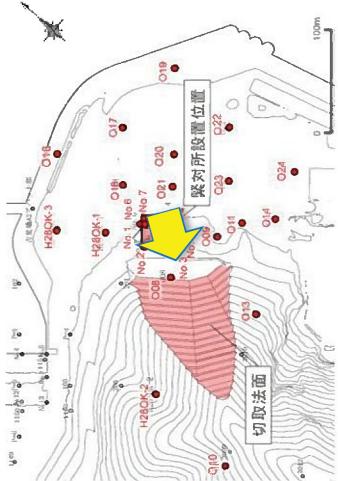
第1.2.3.4.5図 緊急時対策所建屋基礎掘削面観察結果



・建屋基礎掘削面に認められる連續性のよい割れ目は、一部、流入または変質粘土を挟在するものの、粘土の分布は連続的ではなく、最大幅も20mm程度である。また割れ目は湾曲しており、割れ目付近に定向性のある岩片の配列や粒子の配列は認められず、せん断構造は認められないことから、第38条の評価対象となる破碎部ではないと判断する。

建屋基礎掘削面には、第38条の評価対象となる破碎部は認められない。

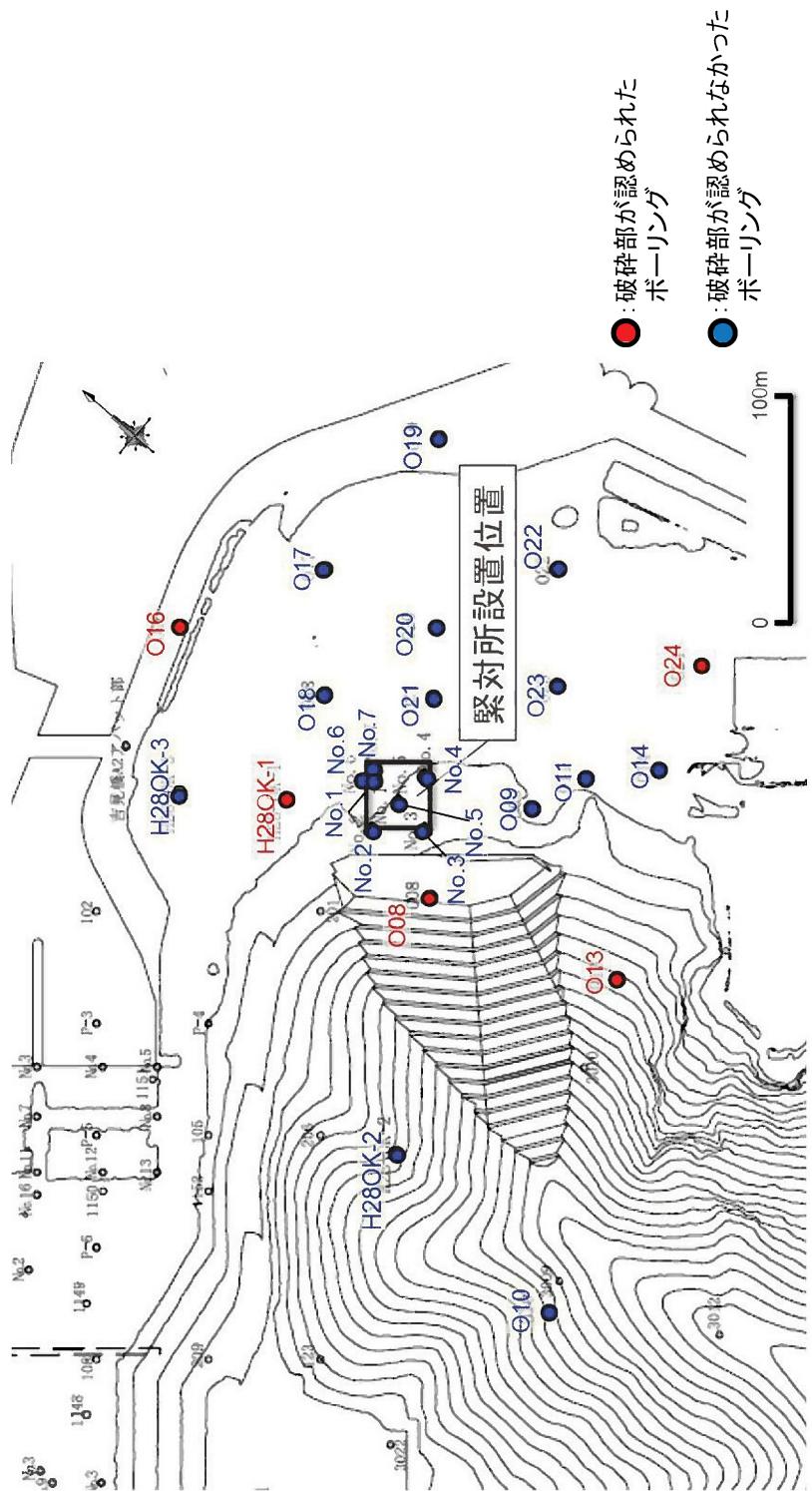
第1.2.3.4.6 図 緊急時対策所建屋基礎掘削面の連續性のよい割れ目の性状



・切取法面の上部に輝緑岩が認められ、下部には細粒石英閃綠岩の分布が認められた。輝緑岩と細粒石英閃綠岩の境界は凹凸し、密着している。

・切取法面に破碎部は認められない。

第1.2.3.4.7図 緊急時対策所周辺の切取法面観察結果

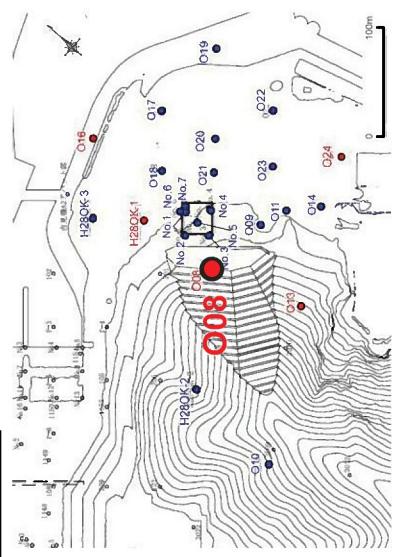


孔名	深度(m)	標高(E.L.m)	性状	走向(°)	傾斜(°)	破碎幅(cm)
008	156.05	-131.91	砂状～角礫状破碎部	52W	40SW	4
013	118.75	-77.41	粘土混じり砂状破碎部	88W	67S	1
016	46.40	-44.32	粘土混じり角礫状破碎部	88E	54S	2
024	110.32	-100.77	礫混じり砂状破碎部	63E	50NW	2
H28OK-1	74.43	-65.11	砂混じり粘土状破碎部	84W	37N	0.5

- ・008、013、016、024及びH28OK-1孔において破碎部が認められた。
- ・このうち、008孔で認められた破碎部は幅が4cmであり、それ以外の破碎部はいずれも幅3cm以下であった。

第1.2.3.4.8図 緊急時対策所設置位置及びその周辺のボーリング調査結果

### 位置図



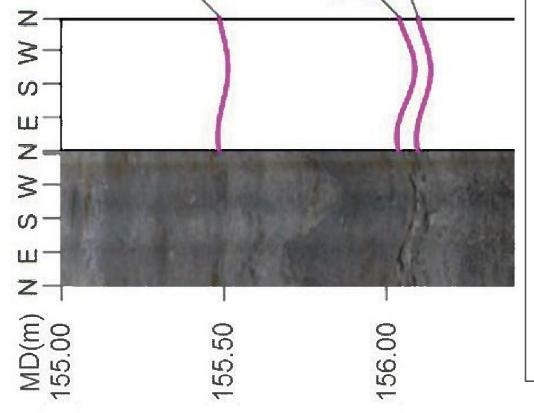
### コア写真



008孔 156.05m付近の拡大写真



### BHTV画像



1.2.3-137

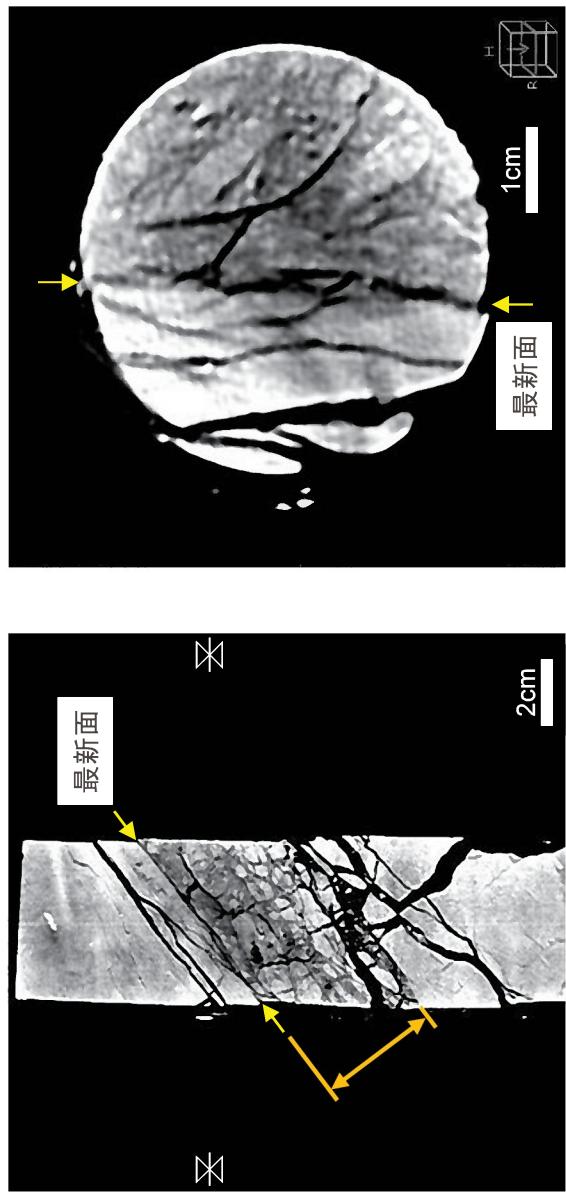


第1.2.3.4.9図 ボーリングコア観察結果 (008孔)

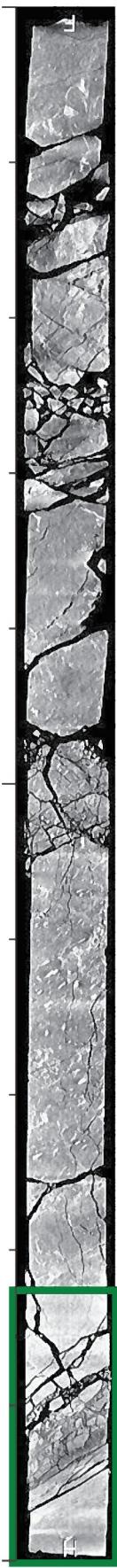
- 156.05m付近に最新面が認められ、最新面に沿って幅4cmの密度低下部が認められた。

コア軸直交方向の断面

最大傾斜方向の断面

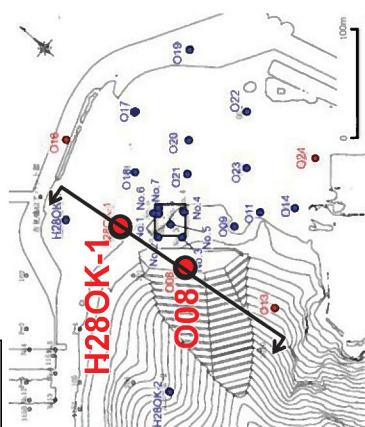


157

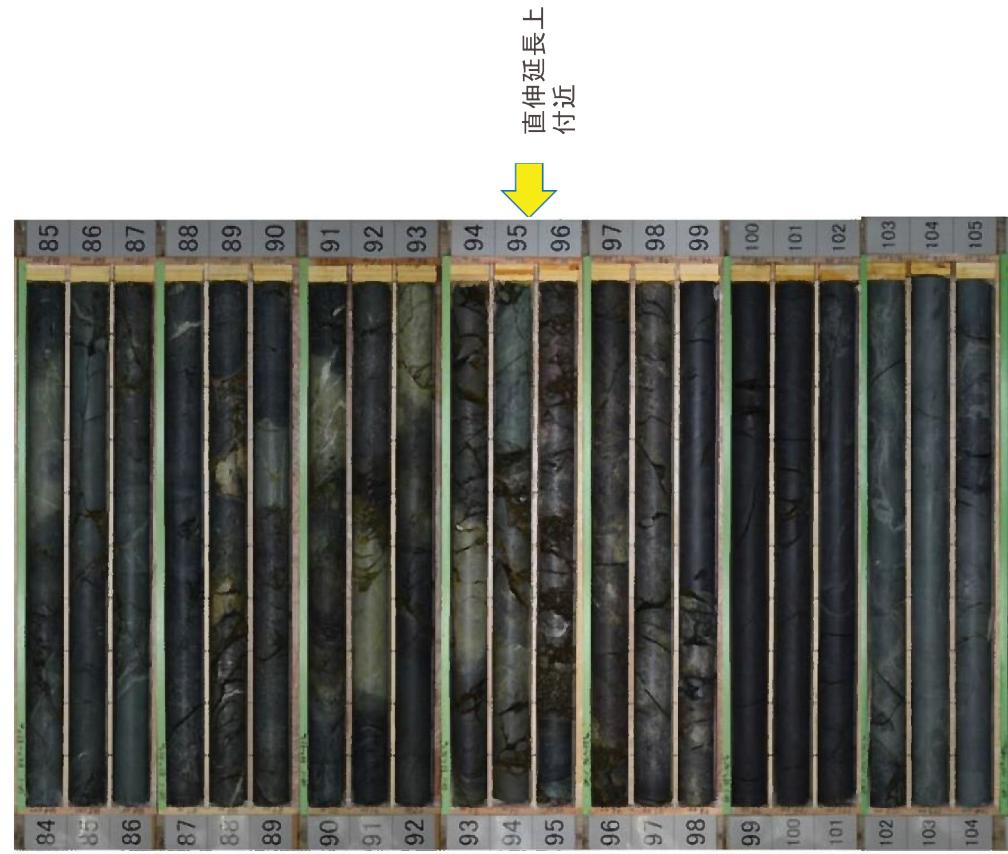


156

### 位置図

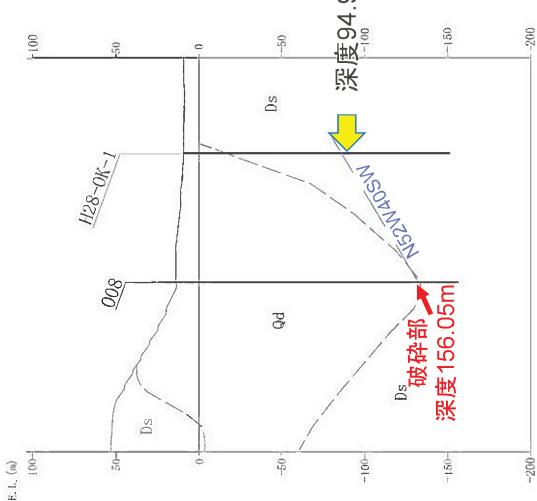


### コア写真



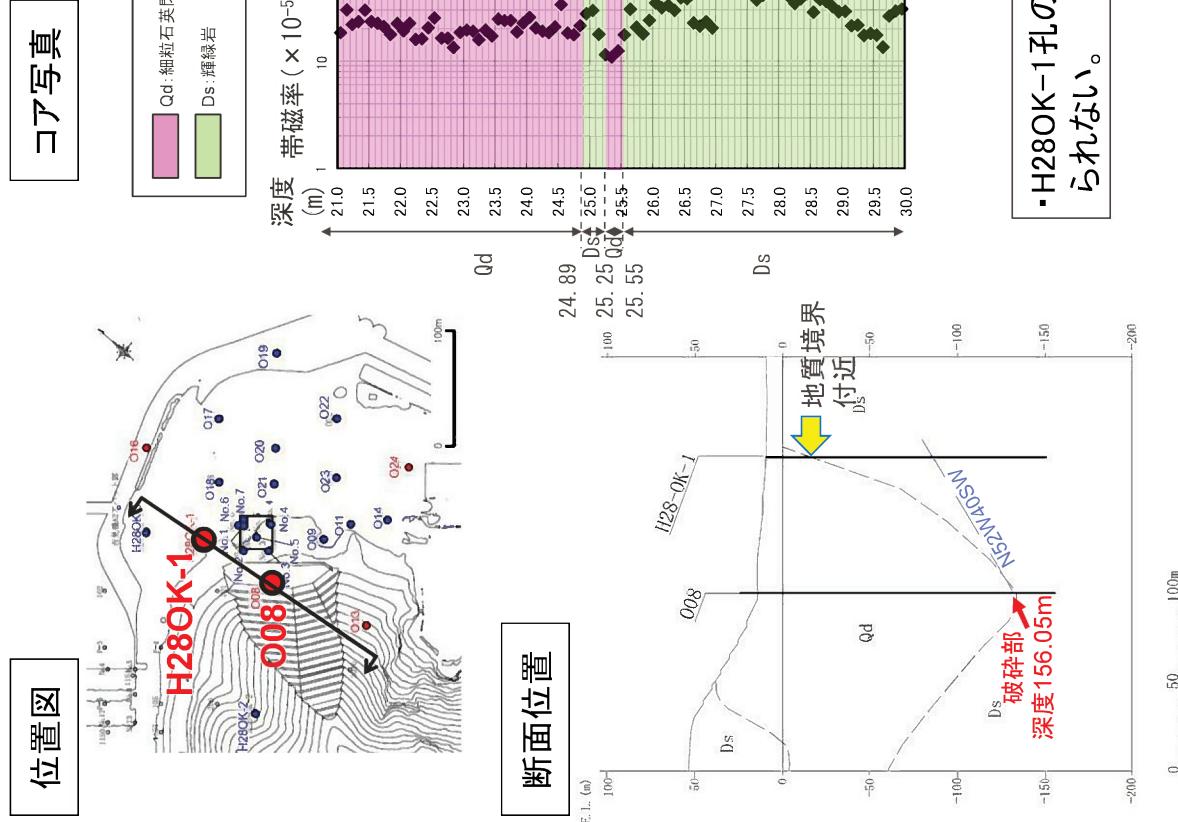
H28OK-1孔 破碎部直伸延長上付近のコア写真

### 断面位置

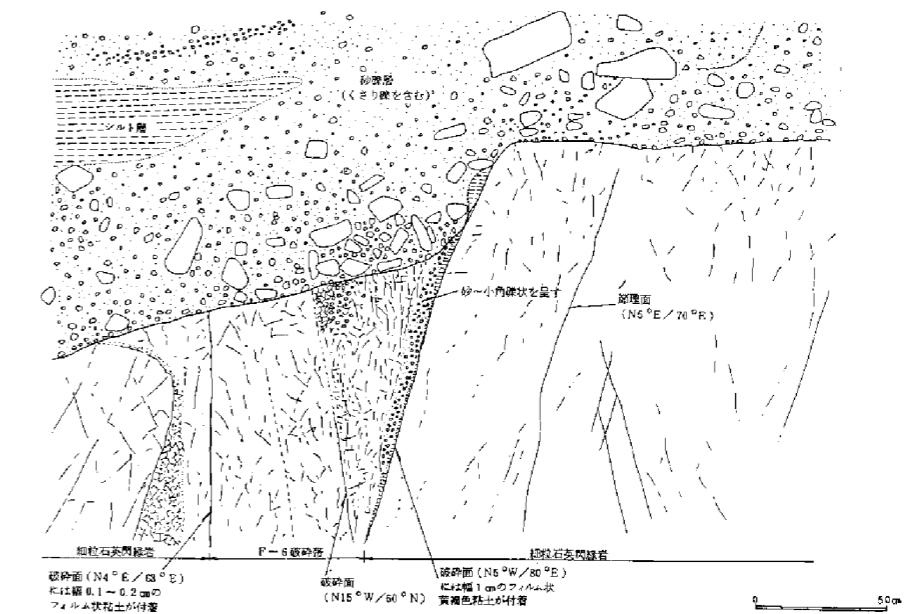
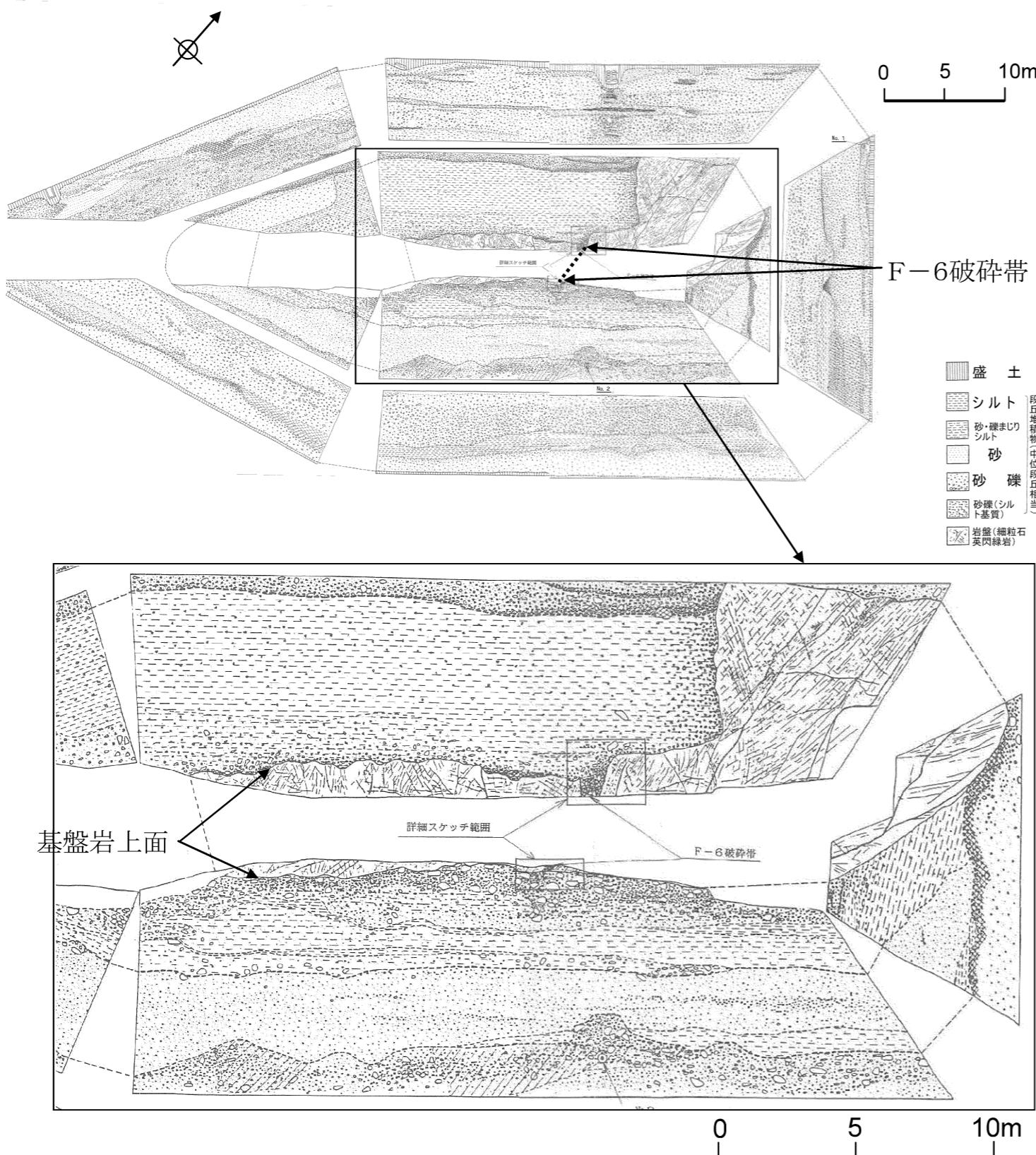


・隣接するH28OK-1孔において、O08孔の深度156.05mで認められた  
破碎部の直伸延長上付近に破碎部は認められない。

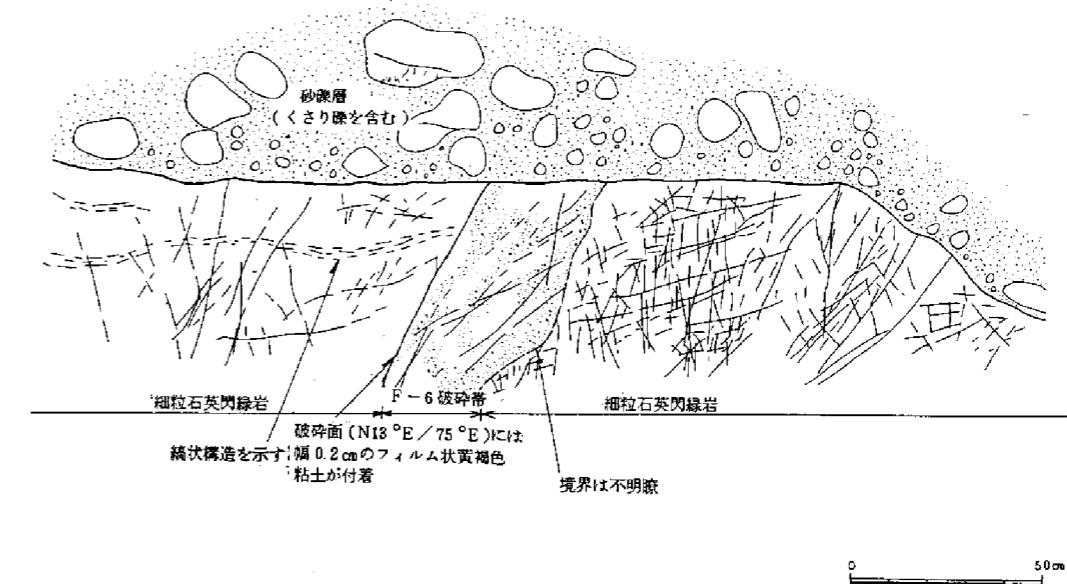
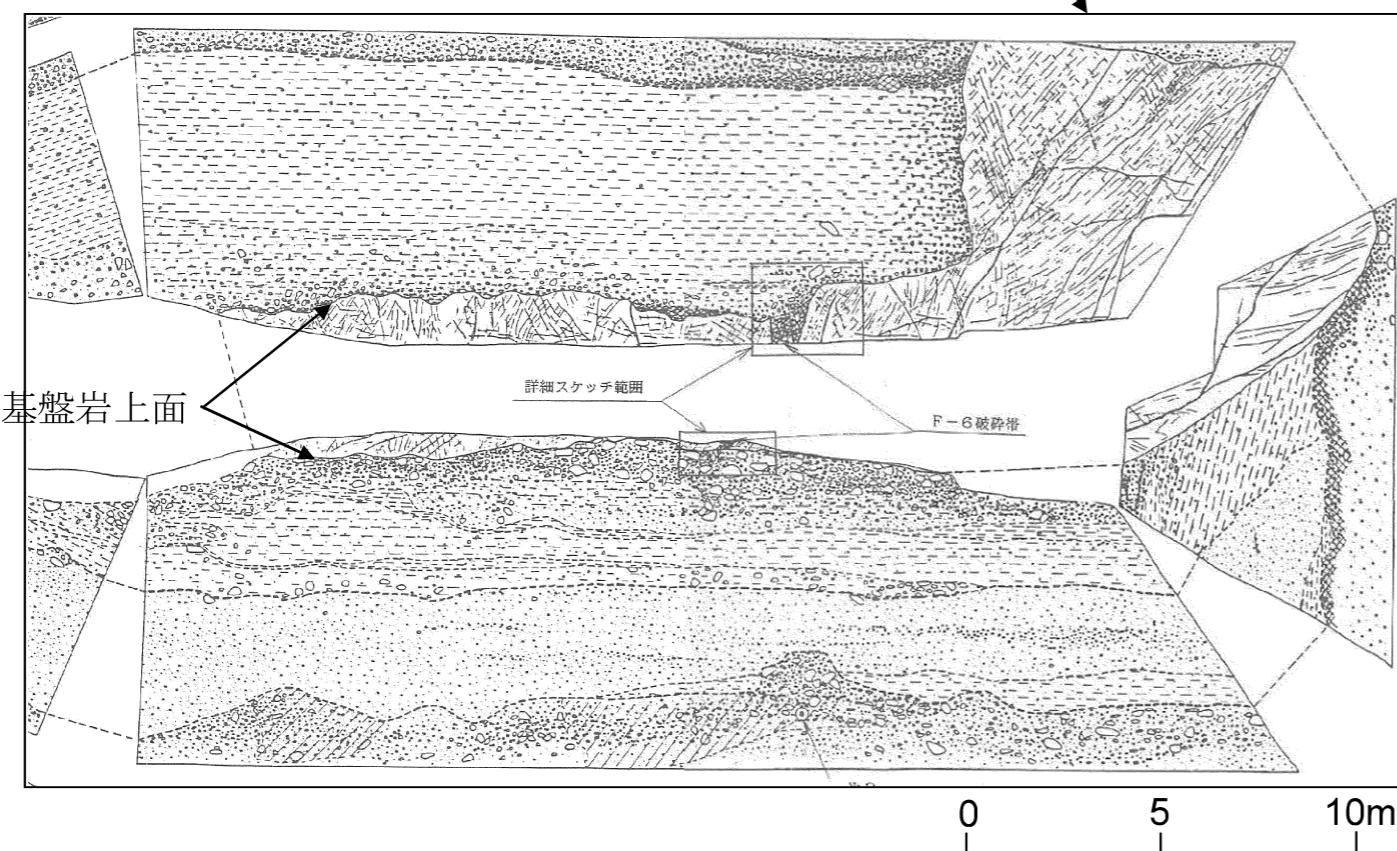
第1.2.3.4.11図(1) 破碎部の連続性検討結果 (O08孔)



・H28OK-1孔の細粒石英閃綠岩と輝綠岩の境界付近において破碎部は認められない。



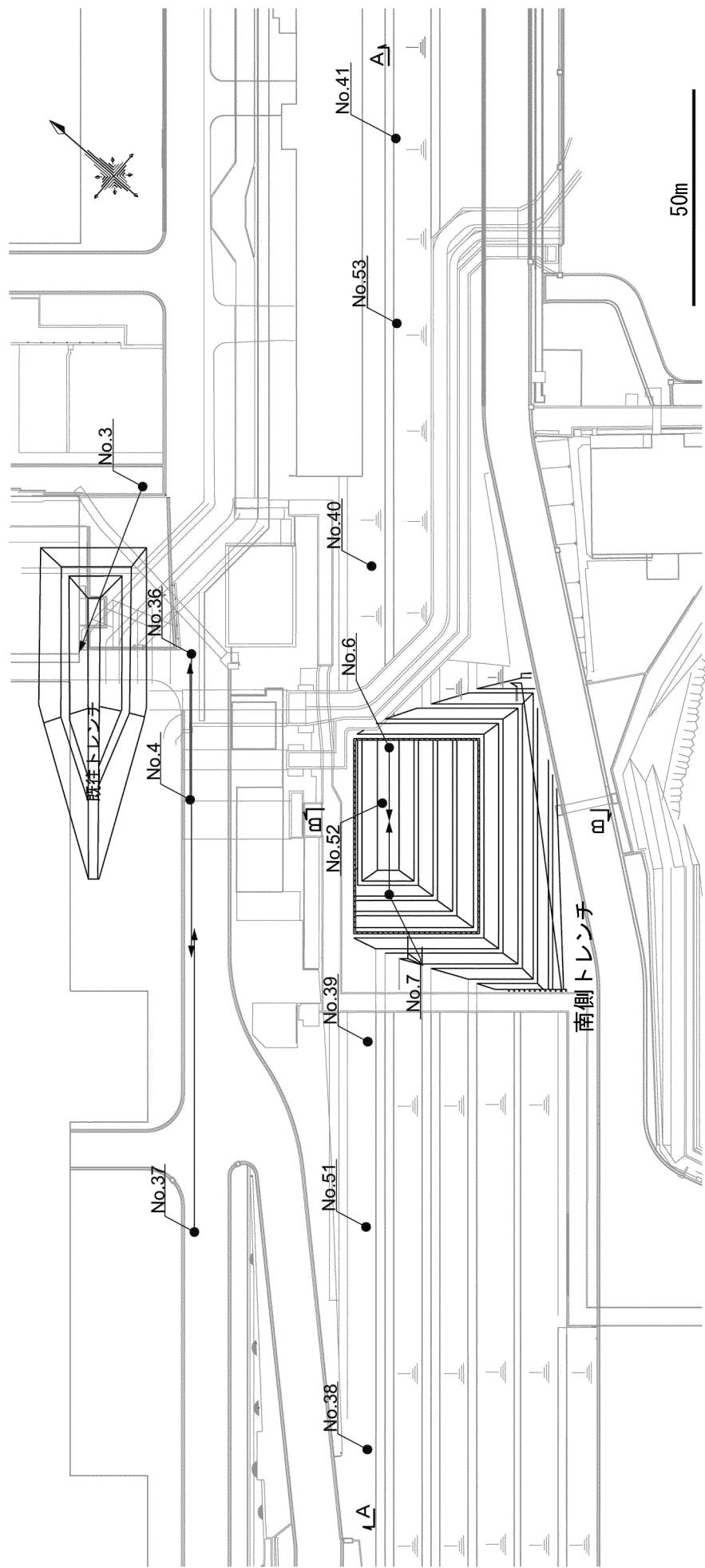
既往トレンチF-6破碎带詳細スケッチ(北西側側壁基底部)

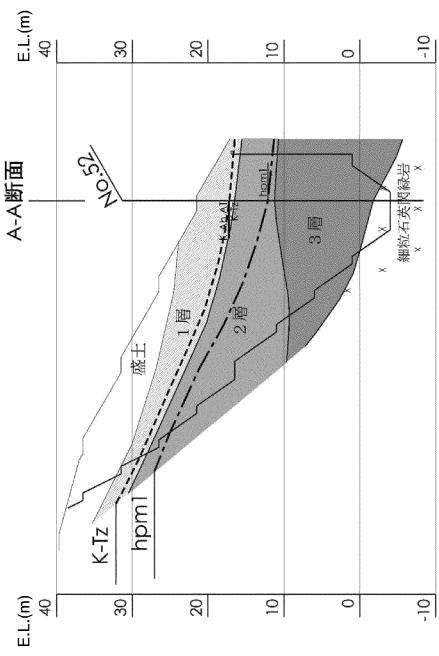
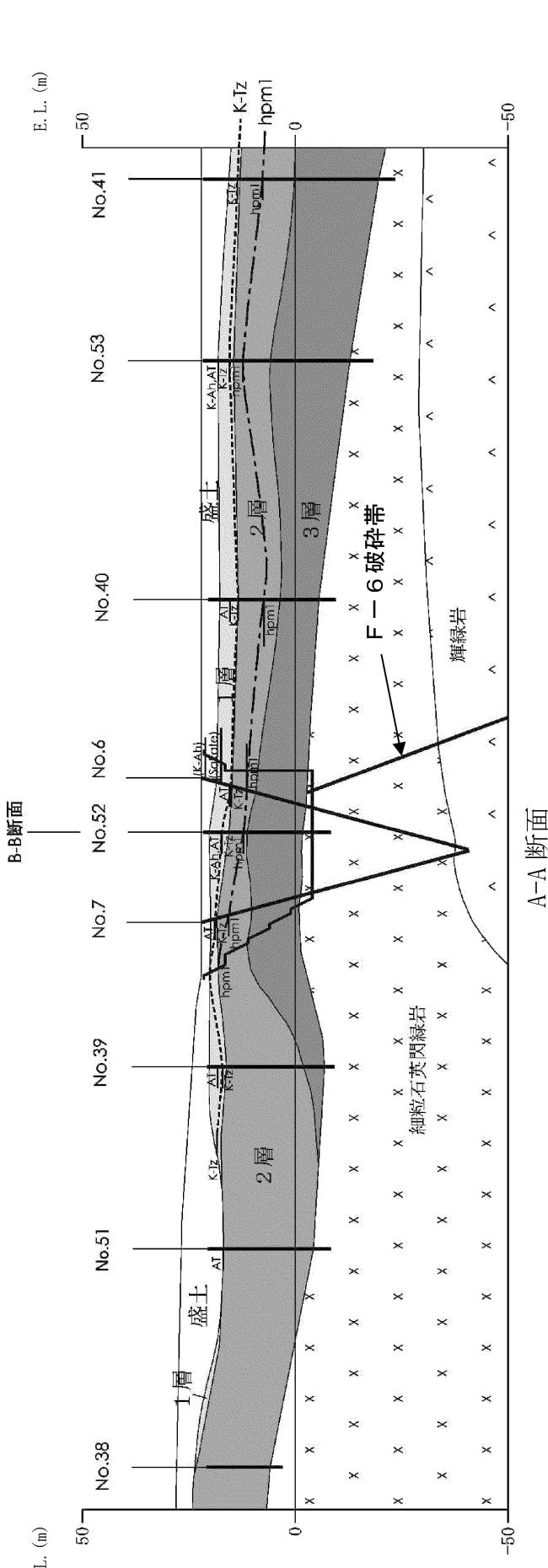


既往トレンチF-6破碎带詳細スケッチ(南東側側壁基底部)

第1.2.3.4.12図 既往トレンチ調査結果

第1.2.3.4.13図 南側トレンチ位置図

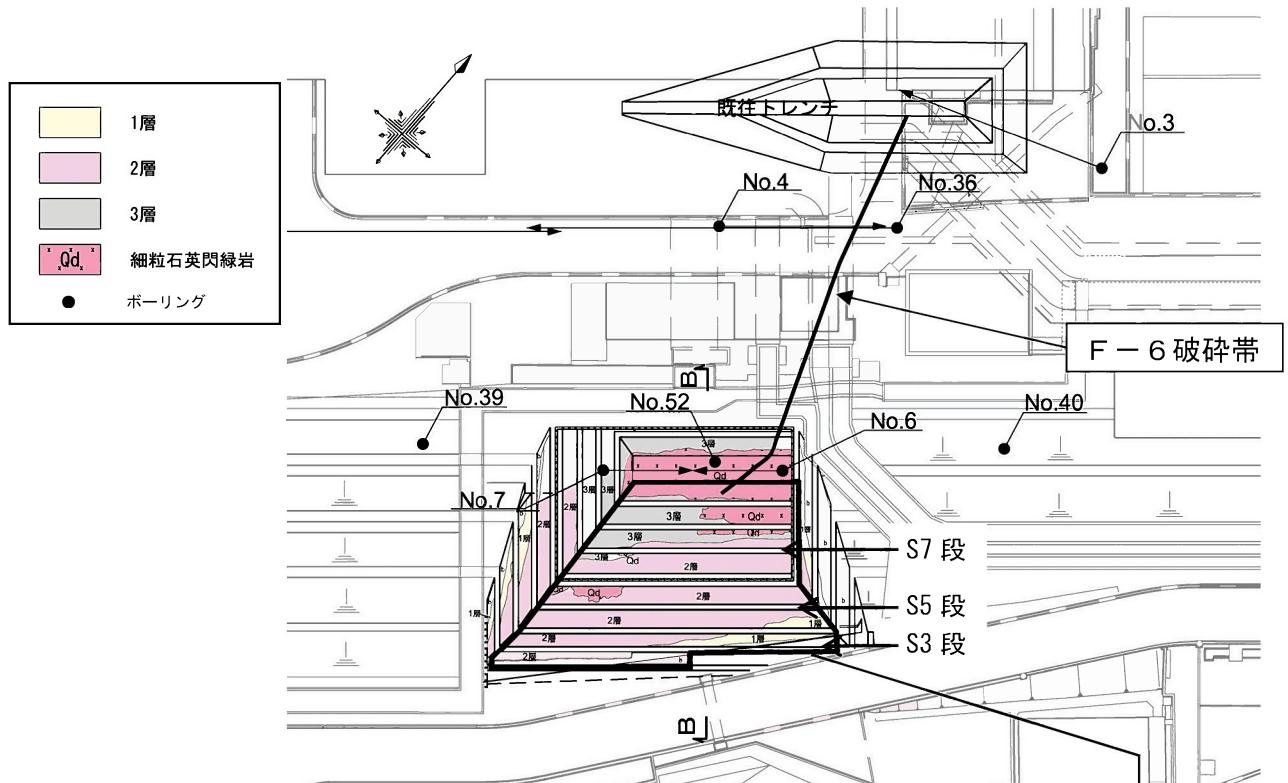




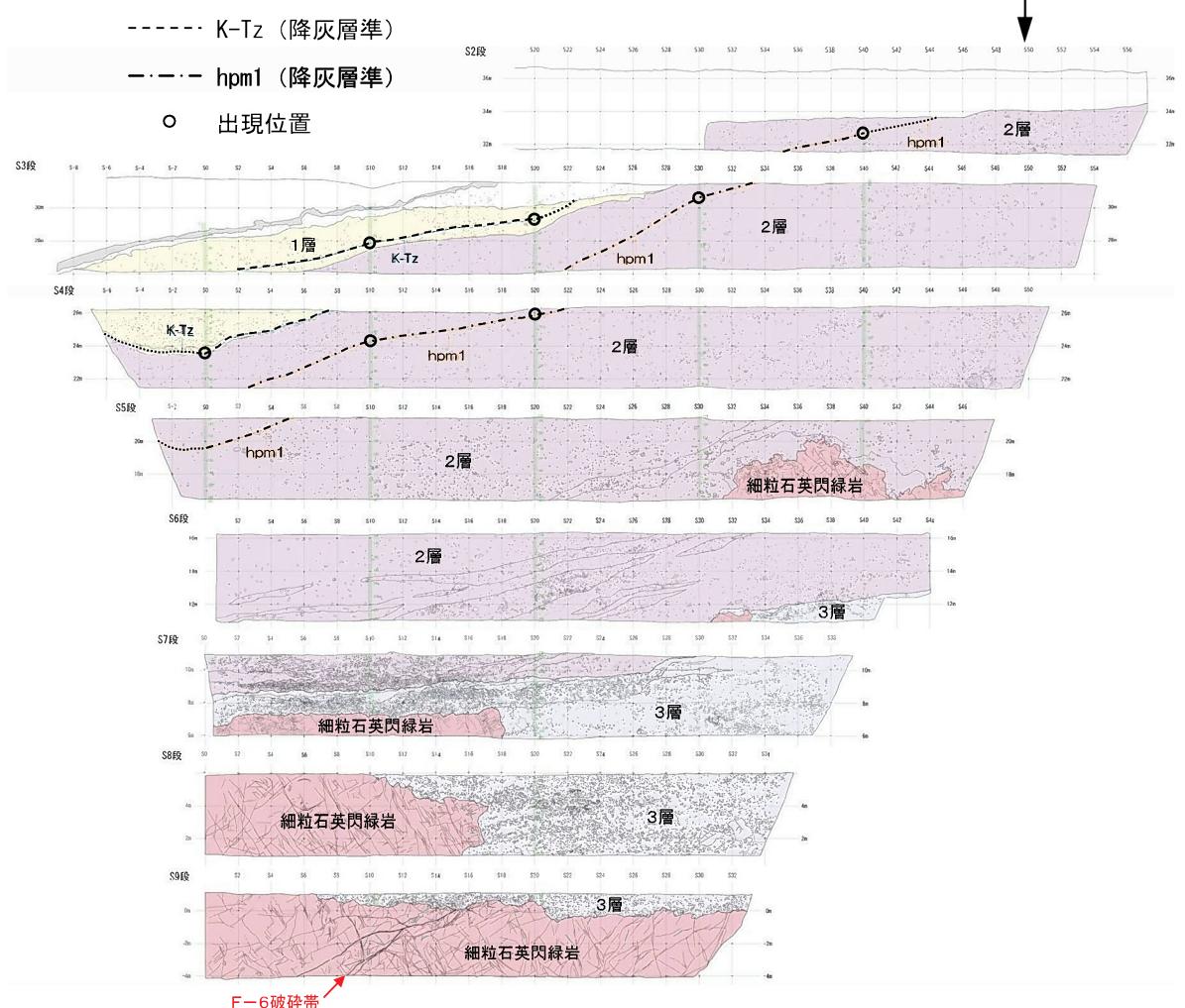
1.2.3-143

※断面図位置は第1.2.3.4.13図に示す。

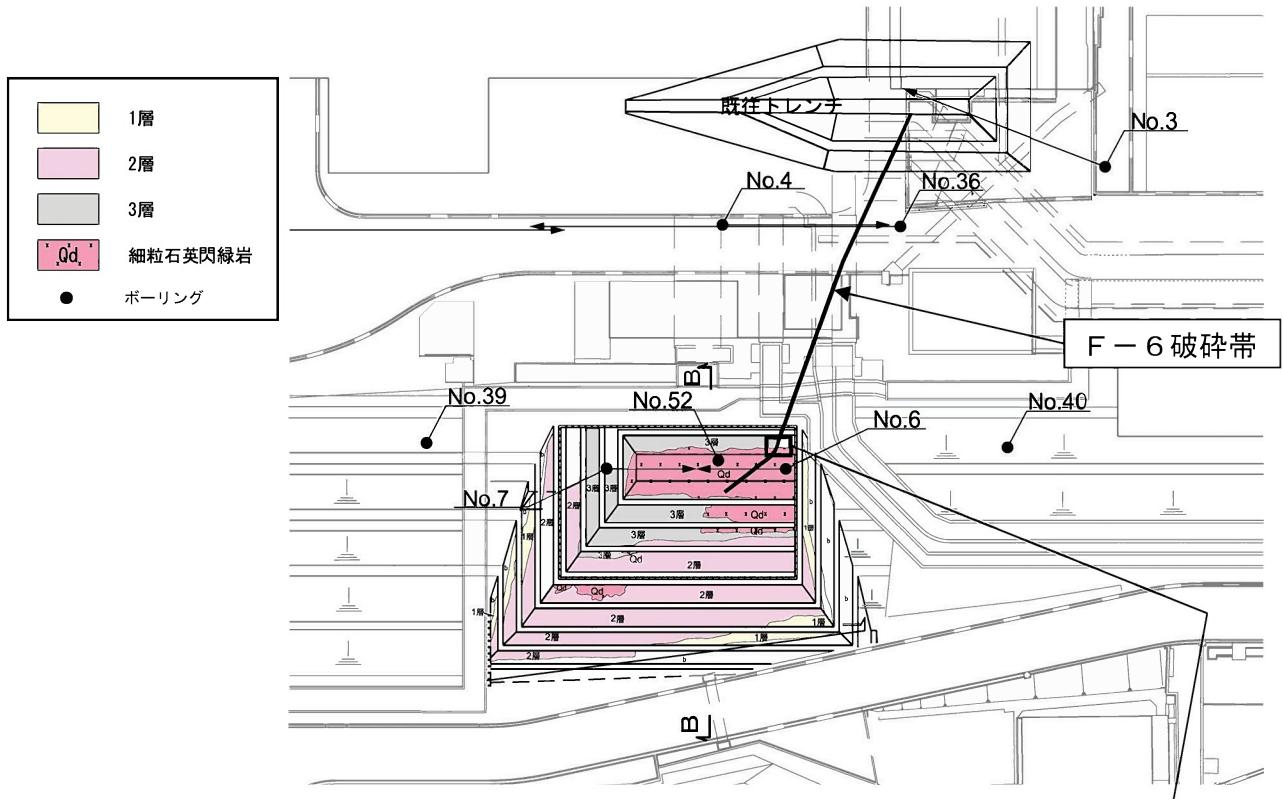
### 第1.2.3.4.14図 南側トレンチ地質断面図



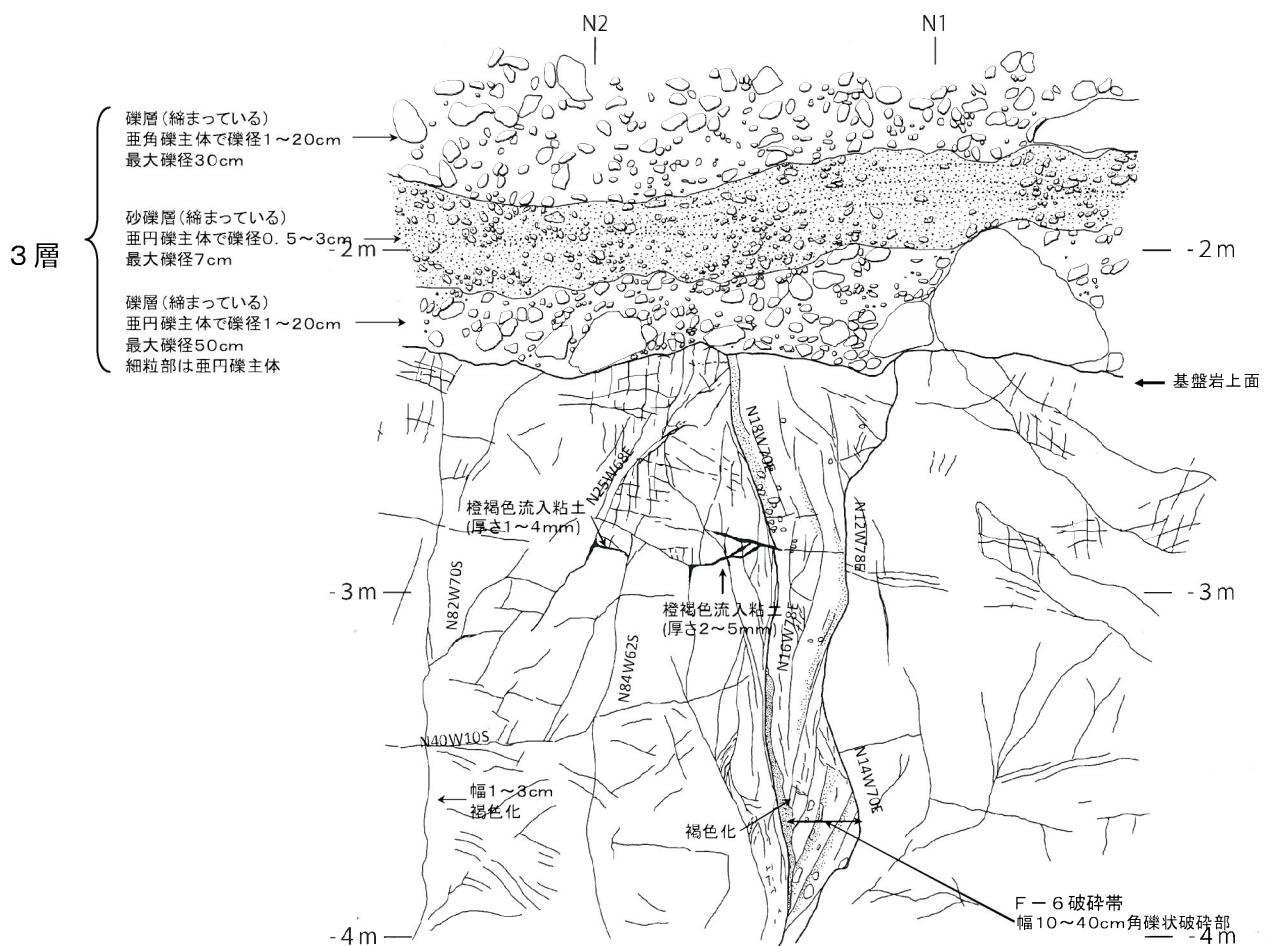
調査位置図



第1.2.3.4.15図 南側トレンチ南側法面スケッチ

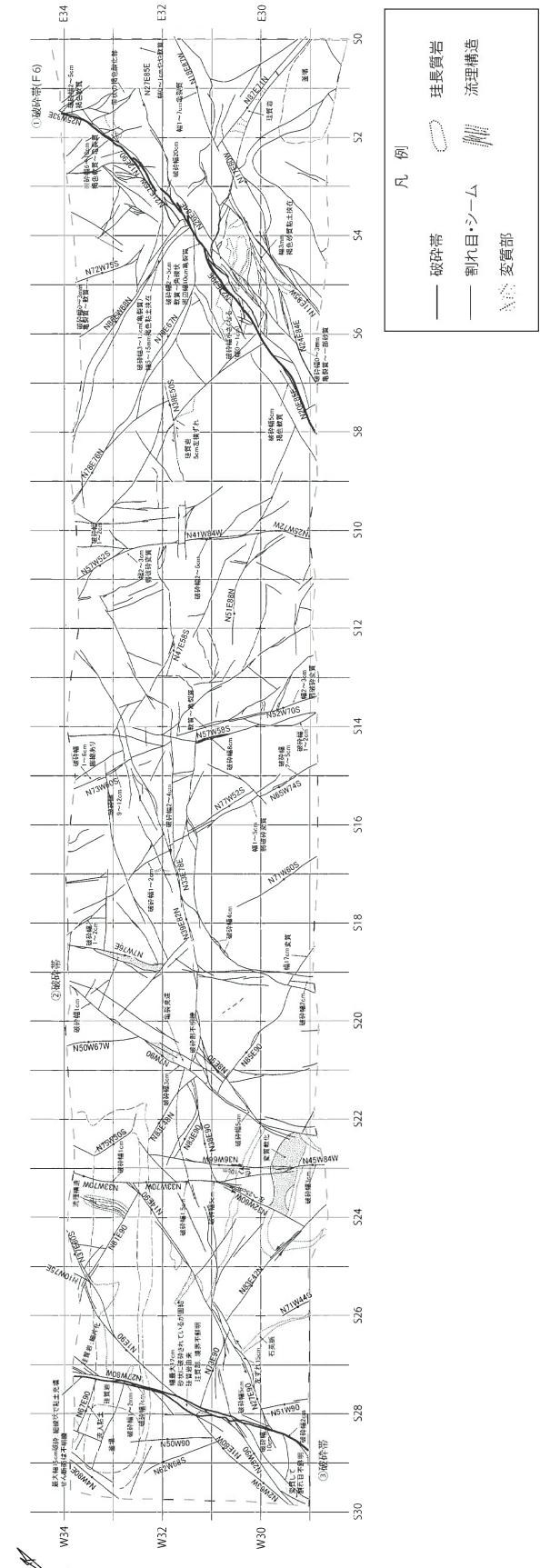
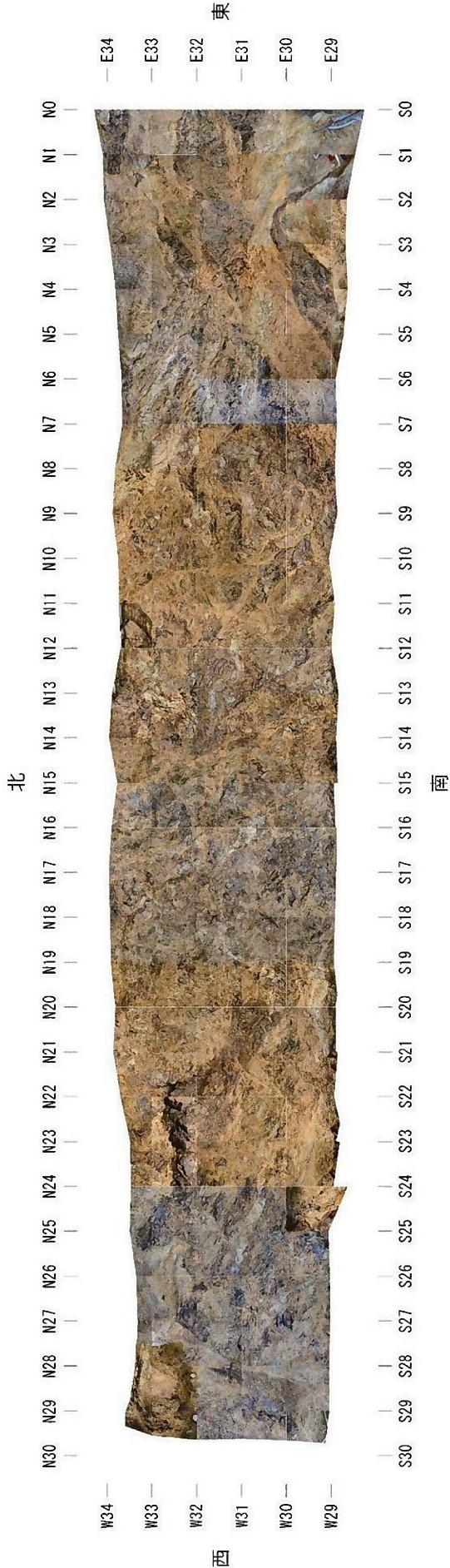


※破碎帶は E. L. 3m に投影して表示

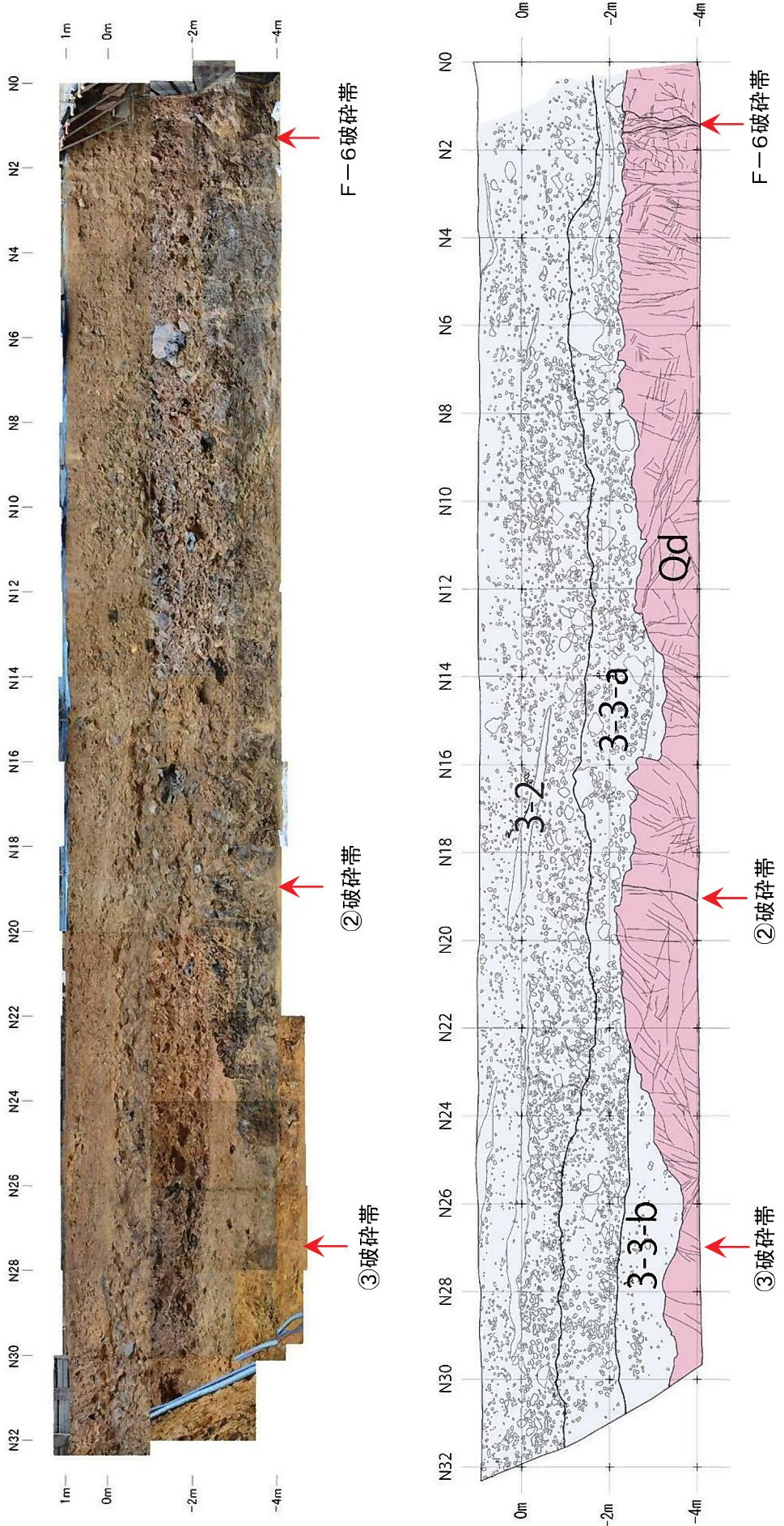


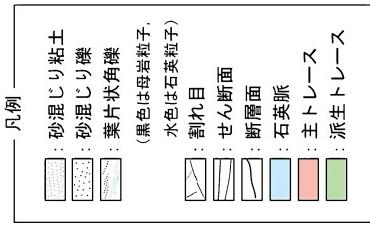
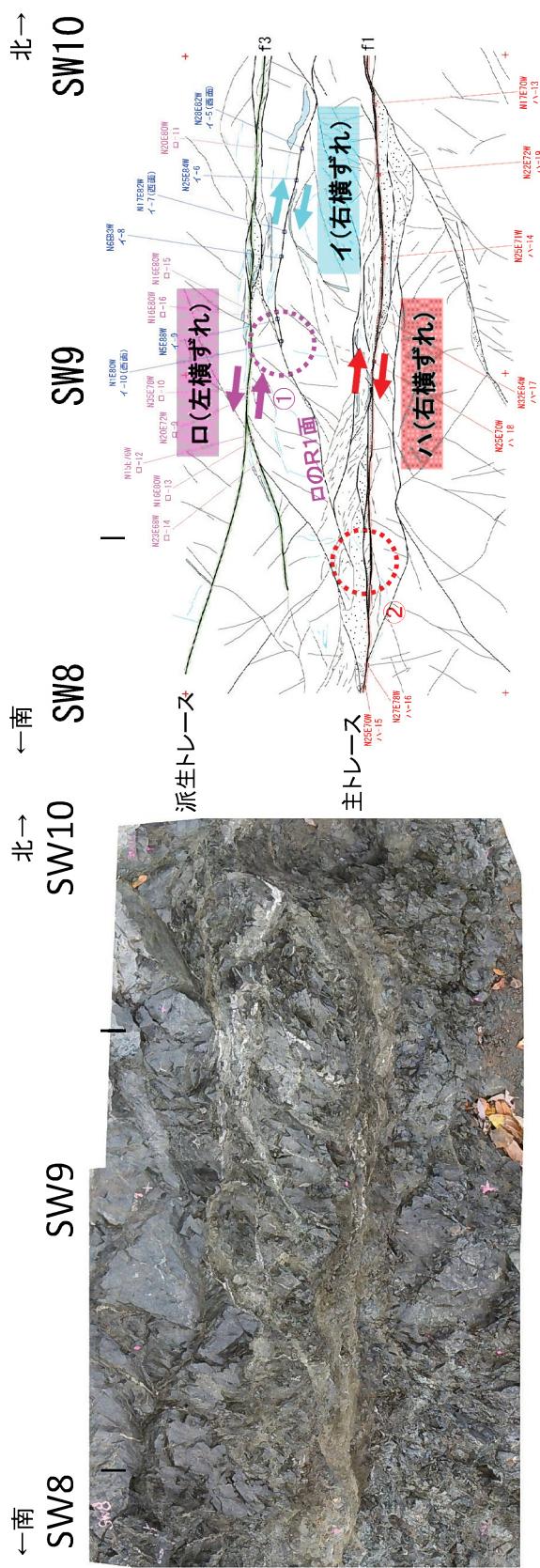
### 第1.2.3.4.16図 南側トレンチ北壁スケッチ

第1.2.3.4.17図 南側トレンチ調査結果（底盤全体写真及びスケッチ）



第1.2.3.4.18図 南側トレンチ調査結果（北側法面全体写真及びスケッチ）





イ: 石英脈の引きずりに特徴付けられる弱いせん断構造を有する右横ずれせん断面  
 口: 派生トレース周辺に多く見られる左横ずれせん断面  
 ハ: 主トレース周辺に多く見られる右横ずれせん断面(最新活動面)

#### 【観察例】

- ①: 口のR1面が、イのY面を切る。
- ②: ハのY面沿いの構造が、口のR1面を切る。



※ 多重逆解法を用いた活動ステージの検討の結果、  
 活動ステージ「ハ」は古い順で「ハ-2」、「ハ-1」に  
 分類され、本地点の活動ステージは「ハ-2」に相当。

第1.2.3.4.19図 山頂トレントチにおけるF – 6 破碎帶の活動履歴評価の例 (SW8～SW10)

# 第1.2.3.4.20図(1) F – 6 破碎帶を対象とした調査で認められた破砕部の活動ステージ検討結果(1)

場所	詳細位置	入力条件										区分		
		方位角	係数	方位角	長さ	センサ	1	2	3	4	5	6		
1	10-19.5m	296.6	674	221.6	31.3	N	38.4	32.8	42.3	17.1	32.1	51.0	27.9	
2	No.10-L	295.6	674	202.8	5.1	S	71.2	64.7	49.0	62.9	59.7	131.1	135.8	
3	10-19.5m	289.6	63.6	291.7	63.3	R	160.8	161.7	176.1	143.4	155.5	70.4	155.6	
4	No.18-L	287.6	70.0	217.6	60.5	N	67.7	65.7	105.5	52.6	38.7	66.6	147.0	
5	No.12-L	286.6	60.0	202.8	50.5	D	12.1	129.2	42.8	12.1	129.2	124.1	125.5	
6	1-2-40.72 m	273.6	85.0	162.1	10.1	S	134.9	151.5	50.5	146.3	141.0	30.5	134.4	
7	No.13-L	286.6	63.0	228.0	53.0	N	154.6	92.1	42.6	120.0	17.6	12.5	166.6	
8	35-2-11.61	280.2	51.0	285.8	5.1	R	146.2	124.4	88.4	146.5	130.0	136.8	92.0	
9	No.35-L	323.6	35.0	161.2	16.7	S	36.6	63.5	71.6	56.5	52.6	72.8	55.6	
10	3-3-1(B95m)	195.6	76.0	117.8	48.8	N	116.3	186.6	136.2	118.1	101.8	117.7	155.7	
11	3-1-3(6.6 m)	286.6	31.0	293.4	23.2	D	68.6	45.7	39.1	57.5	75.7	72.2	56.0	
12	3-2-40.25 (上)	273.6	63.0	211.4	43.0	R	145.1	123.3	93.4	151.4	137.9	141.7	150.5	
13	3-2-40.25 (下)	273.6	63.0	201.4	39.1	R	146.2	124.4	88.4	146.5	130.0	136.8	92.0	
14	3-2-40.32 m	286.6	62.0	220.6	46.3	R	143.6	108.1	66.2	122.7	80.2	157.6	30.3	
15	3-3-54(62 m)	232.6	42.7	42.7	13	S	48.2	19.2	42.7	19.2	19.2	13.0	13.0	
16	13-3-76.48	309.6	44.0	256.7	29.4	R	172.8	171.2	174.3	176.3	165.0	72.6	178.6	
17	1-1(SW43-S4+1)	285.6	76.0	21.6	3.9	D	93.2	111.0	32.8	127.2	101.7	73.3	105.4	
18	S15.10	103.6	76.0	190.2	9.7	D	259.9	45.5	32.4	41.6	18.4	25.2	35.7	
19	1-2-SW460	300.6	76.0	251.1	13.1	D	92.2	102.6	94.8	111.6	100.2	79.5	106.2	
20	1-3	285.6	75.0	11.4	25.1	N	56.3	70.6	26.0	96.2	62.8	44.3	11.9	
21	1-4	286.6	78.0	18.0	1.0	D	70.4	27.3	21.6	74.4	56.3	12.2	12.2	
22	SWP8.5	291.6	52.0	4.6	75	D	102.7	91.6	97.7	106.6	101.6	92.4	102.7	
23	1-9(SW16)	291.6	76.0	21.6	0.6	D	83.9	106.9	56.0	125.0	91.5	74.8	48.9	
24	1-10(SW16.5)	291.6	77.0	15.6	21.4	N	60.8	29.8	103.3	36.7	45.0	8.0	12.2	
25	1-12(SW15)	283.6	74.0	9.6	15.1	D	62.0	65.6	16.8	95.5	60.1	51.2	48.8	
26	SW10.1	287.6	74.0	19.6	8.6	D	32.8	101.5	56.6	128.2	36.1	79.4	37.9	
27	28.山頂トレンチ	295.6	71.0	19.0	17.6	D	83.0	92.2	76.1	109.6	98.0	56.2	92.7	
28	1-19(SW9.3)	292.6	72.0	4.6	75	D	90.4	101.1	83.1	125.2	102.4	92.4	102.4	
29	SWW.8	293.6	80.0	203.9	45	D	91.9	108.7	46.3	134.3	90.6	64.6	81.1	
30	1-15(SW8)	295.6	76.0	22.2	7.5	D	91.3	87.6	102.3	87.6	119.5	101.0	51.0	
31	1-19-20	296.6	67.0	15.2	8.0	N	80.2	75.5	102.6	81.2	91.6	11.0	15.6	
32	1-33	293.6	80.0	18.4	24.6	N	51.9	78.7	18.3	104.3	60.6	34.7	2.9	
33	SWW.4	286.6	70.0	206.3	0.9	D	104.1	102.6	99.5	129.2	111.1	91.3	115.1	
34	□-12-△-γ(1)(SWB.8)	285.6	76.0	8.5	23.2	N	45.9	2.0	9.1	35.7	10.4	13.0	10.2	
35	□-13-△-γ(1)	285.6	74.0	9.3	19.2	D	50.6	61.0	17.4	59.7	47.0	12.1	50.6	
36	□-13-△-γ(2)	285.6	74.0	15.6	0.6	D	79.6	81.0	37.4	115.6	79.7	11.3	11.3	
37	□-14-△-γ	283.6	68.0	16.1	16.6	D	85.0	88.9	74.7	107.8	91.1	33.3	79.1	
38	□-17-△-γ	287.6	63.0	13.2	0.6	D	87.7	65.5	105.6	76.8	83.0	54.3	11.1	
39	□-20-γ(1)	286.6	76.0	15.5	1.9	D	71.8	84.2	28.4	115.2	73.1	11.1	35.5	
40	□-20-γ(2)	295.6	76.0	19.5	1.5	D	75.1	103.1	12.3	119.2	77.0	12.6	43.5	
41	△-32-□	291.6	78.6	20.4	2.6	N	51.3	10.3	28.5	48.0	79.9	119.6	128.7	
42	□-5	291.6	78.6	20.4	2.6	N	73.6	53.6	108.2	27.3	61.4	80.6	140.9	
43	山頂トレンチ	297.6	80.0	21.16	24.6	N	67.9	46.6	73.3	22.2	51.8	65.4	81.4	
44	△-9	290.6	72.0	21.2	4.6	N	81.7	84.2	28.4	115.2	73.1	12.6	44.2	
45	△-10	305.6	76.0	22.24	3.12	N	45.1	22.8	36.3	61.4	24.9	10.2	45.1	
46	△-11-□	286.6	65.0	20.3	9.1	N	67.1	68.0	86.5	48.5	62.7	77.0	64.5	
47	SW-20	281.6	73.0	34.14	28.0	N	60.6	11.3	45.4	23.2	54.4	47.1	63.1	
48	SW-20	295.6	64.0	26.0	6.1	N	169.7	64.1	90.1	87.1	145.1	126.1	156.1	
49	山頂トレンチ	294.6	73.6	306.7	60.5	N	133.3	77.0	102.4	94.7	122.7	55.3	128.5	
50	△-9	244.6	51.0	321.4	54.5	N	102.7	109.3	56.3	128.7	51.0	2.5	2.5	
51	SW-21	283.6	62.0	24.6	56.6	N	56.2	12.3	33.0	78	13.2	84.0	11.1	
52	○-1-6-△-1(16.8 m)	283.6	67.0	138.8	69.8	N	69.0	24.8	18.7	21.1	11.0	10.6	20.0	
53	△-2-20.75m(F-4)	283.6	58.0	241.7	50.2	R	172.9	164.5	166.5	173.1	177.0	17.1	17.1	
54	No.1 H	1-9 (Old 120.9m(F-6))	285.6	82.0	213.6	29.7	N	64.0	30.1	65.7	14.3	64.0	77.3	151.6
55	△-9 (New 120.9m(F-6))	295.6	82.0	12.4	63.8	N	2.0	54.9	19.3	70.7	32.9	1.1	73.0	
56	△-9 (New 120.9m(F-6))	295.6	82.0	12.4	63.8	N	2.0	54.9	19.3	70.7	32.9	1.1	73.0	

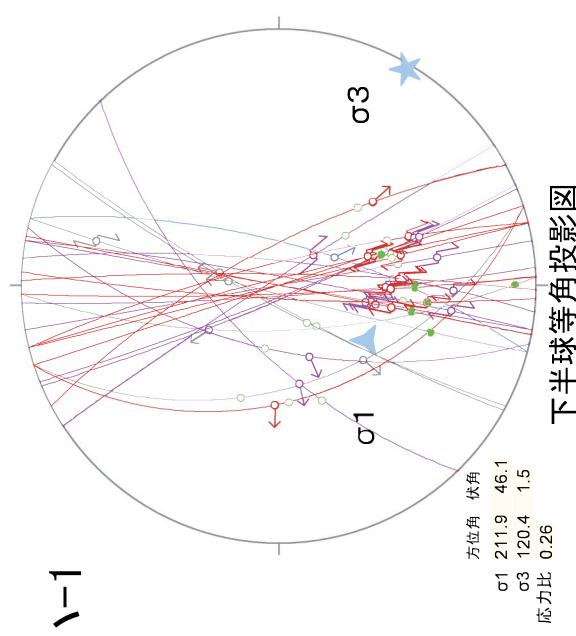
その他



区分	場所	詳細位置	入力条件												ハイ-1			
			ハイ-1			ハイ-2			ハイ-3			ハイ-4			ハイ-1			
			方位角	高角	反射率	センサ	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5
57	2-1 205 m (F-4)	850 1400 2320	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
58	2-3 62.81	850 1400 2950	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
59	No.2 Fl.	2-4(New) 85.5 (F-6)	850 1400 2930	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
60	No.5 Fl.	2-5(255) 325.5 (F-6)	850 1400 2930	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
61	2-6 1412 m	850 1400 3030	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
62	No.5 Fl.	5-1(285) 70.5 m (F-6)	850 1400 3050	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
63	No.3 Fl.	3-2(New) 70.5 m (F-6)	850 1400 3050	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
64	3-6(1 485 m <sup>2</sup> )	850 1400 3050	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
65	No.30 Fl.	30-2 85.5 m	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
66	6-1 31.6 m	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
67	6-1 (New) 52.2 m	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
68	6-1(2) 52.2 m	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
69	No.37 Fl.	3-7 (2.4395m)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
70	3-7 (10.15 m)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
71	No.6 Fl.	3-7 (15.9 m)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
72	6-1 (2.4395m)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
73	M-1 (1-1) x 3	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
74	M-1 (2-1) x 3	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
75	南側トランチ (ハ)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
76	M-1 (2-2) x 4	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
77	M-1 (2-3) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
78	M-1 (2-4) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
79	M-1 (2-5) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
80	M-1 (2-6) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
81	M-1 (2-7) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
82	南側トランチ (ロ)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
83	M-1 (2-8) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
84	M-1 (2-9) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
85	M-1 (2-10) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
86	M-1 (2-11) x 10	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
87	S21.52-2-1	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
88	S21.52-2-2	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
89	S21.52-2-3	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
90	S21.52-2-4	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
91	S20.2-6-1	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
92	S20.2-6-2	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
93	S21.2-7	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
94	S21.2-8	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
95	南側トランチ (ロ)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
96	2-坡体帶	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
97	S21.2-1-1	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
98	S21.2-1-2	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
99	S21.2-1-3	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
100	S23.2-14	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
101	S23.2-15	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
102	S23.2-16	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
103	S23.2-17	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
104	S21.2-9	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
105	S23.2-14	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
106	No.5 Fl.	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
107	8-4 43.00 m	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
108	9-4(New) 116.65 m (F-6)	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
109	No.9 Fl.	9-5 (116.65 m (F-6))	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620
110	11.1 茅ヶ崎山	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
111	11.2 茅ヶ崎山	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
112	11.3 茅ヶ崎山	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
113	11.4 茅ヶ崎山	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	
114	11.5 茅ヶ崎山	850 1400 3120	850	1400	1644	1516	284	1459	41.5	30.7	4.6	298	39.3	44.9	227	△	1620	

第1.2.3.4.20図(2) F-6破砕帶を対象とした調査で認められた破碎部の活動ステージ検討結果(2)

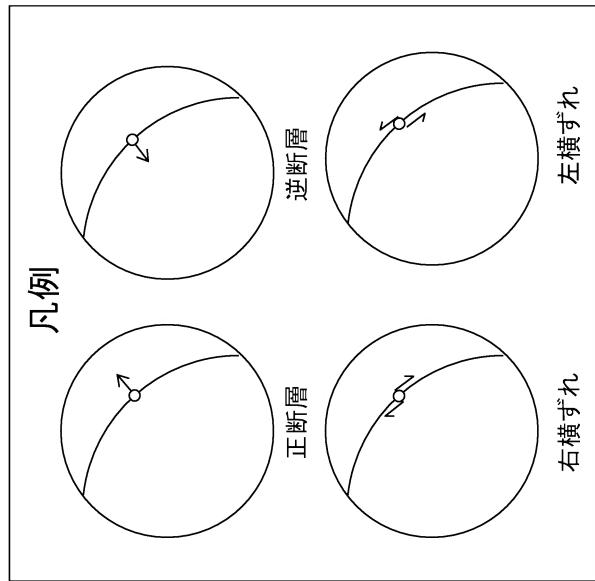
J\J-2



下半球等角投影図

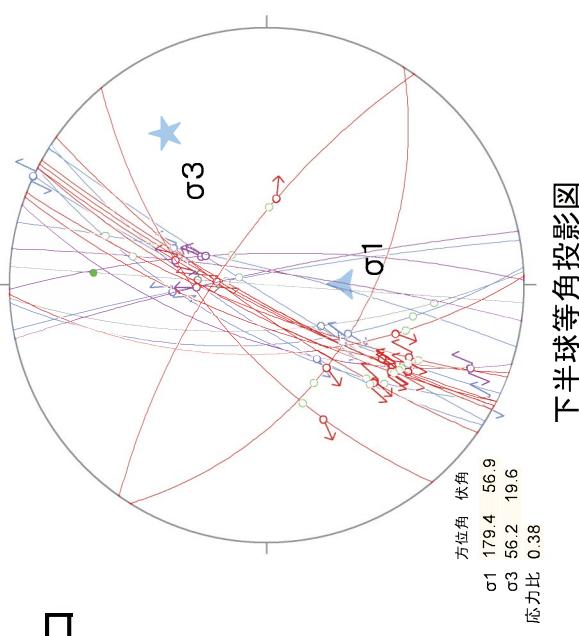
□

1.2.3-151

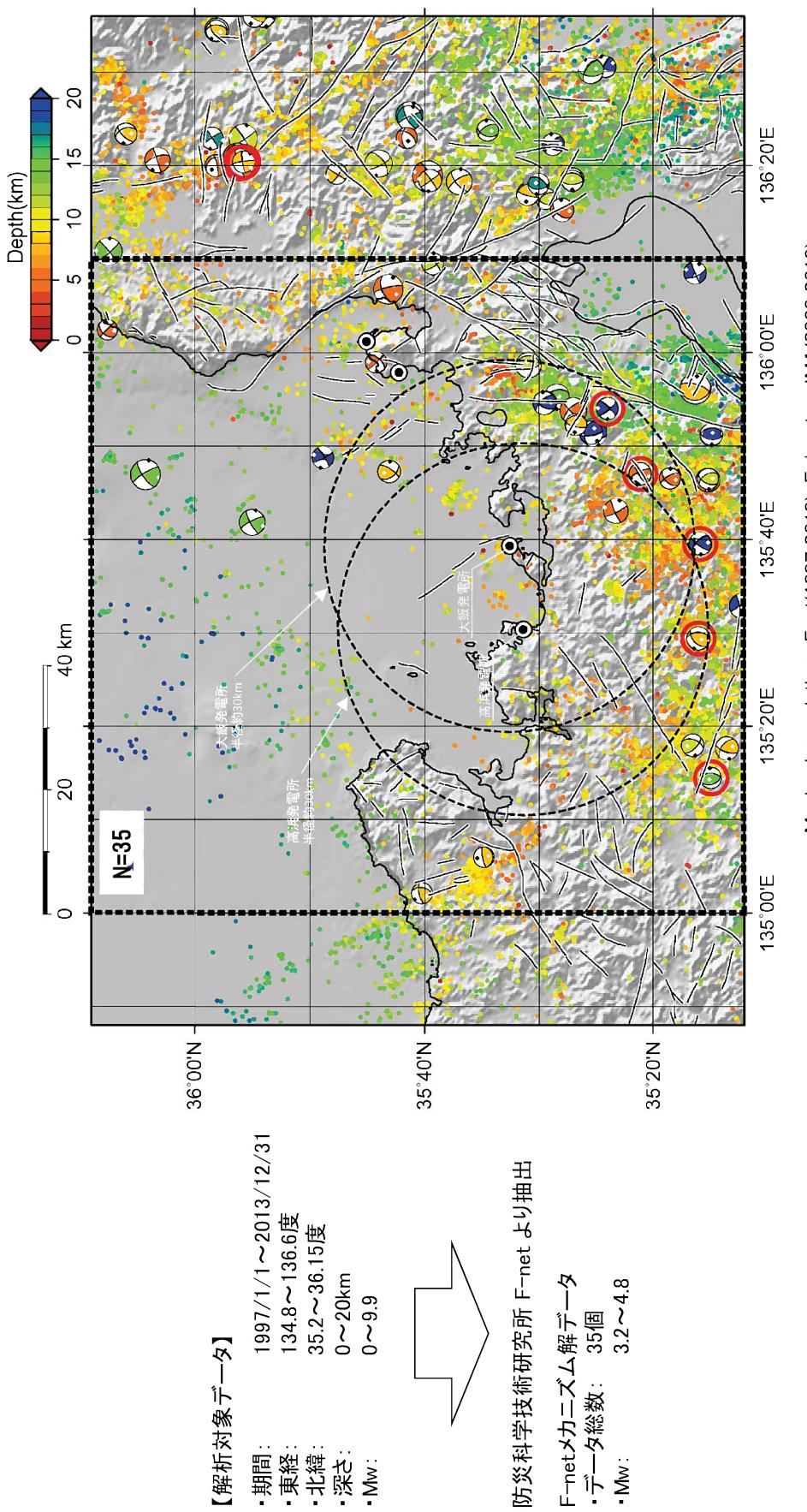


第1.2.3.4.21図 各活動ステージに對応する応力状態

J\J-1



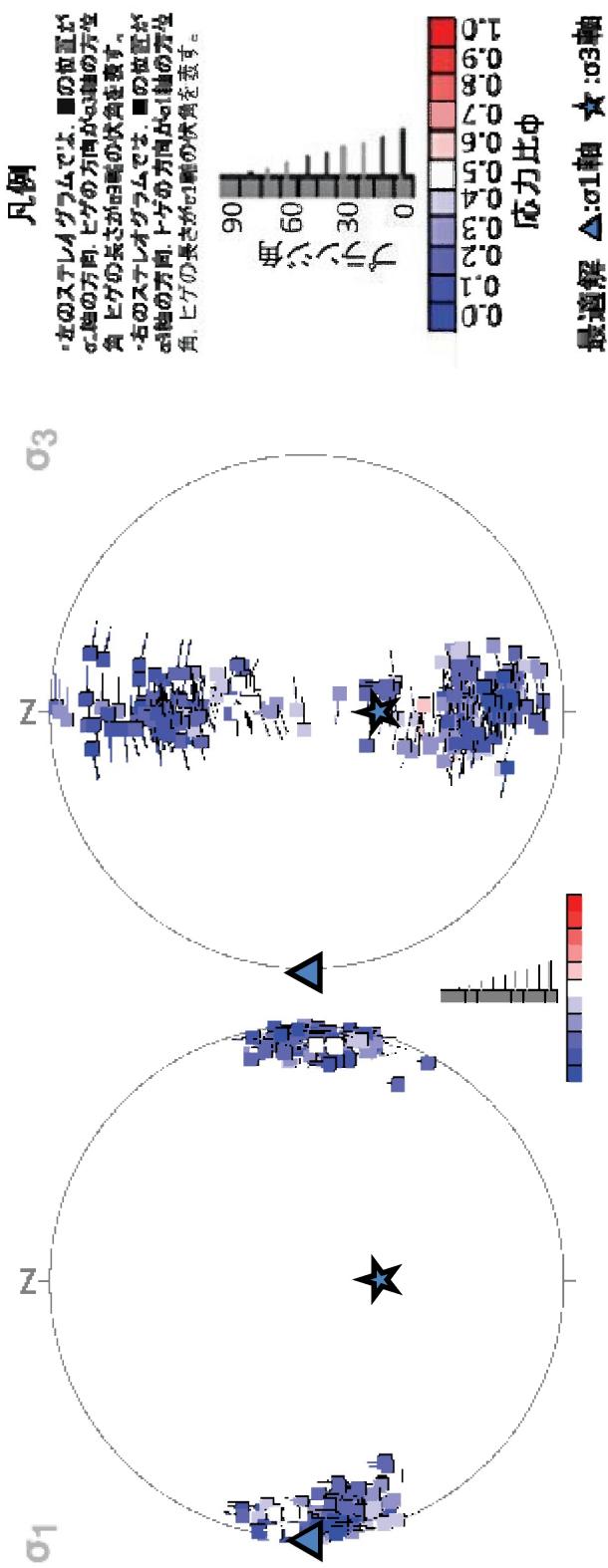
下半球等角投影図



図中の○は東北地方太平洋沖地震発生後を示す

- 上記条件に合致する震源メカニズム解を防災科学技術研究所 F-net より抽出した結果、35個の震源メカニズム解が抽出された。
- 抽出された震源メカニズム解によれば、大飯発電所の敷地周辺から半径約30kmの範囲には、正断層型の地震の発生は認められない。
- 35個の震源メカニズム解を解析対象とし、多重逆解法(Yamaji (2000a)<sup>(23)</sup>、2000b<sup>(24)</sup>)を用いて、大飯発電所敷地周辺における現在の広域応力場に関する検討を行った。

第1.2.3.4.22図(1) 大飯発電所敷地周辺における現在の広域応力場に関する検討(1)



$$\text{応力比} \varphi = \frac{\sigma_2 - \sigma_3}{\sigma_1 - \sigma_3}$$

- σ<sub>1</sub>は東西で水平 → 東西圧縮応力場
- σ<sub>3</sub>は南北でやや傾く → 横ずれ(主体)～逆断層
- 応力比φが小さいので、σ<sub>2</sub>とσ<sub>3</sub>の差は極めて小さい

- 35個の震源メカニズム解を解析対象とし、多重逆解法(Yamaji (2000a)<sup>(23)</sup>、2000b<sup>(24)</sup>)を使用して、敷地周辺における現在の広域応力場に関する検討を行った結果、敷地周辺における現在の広域応力場は、東西圧縮応力場である。
- なお、現在の広域応力場は、東北地方太平洋沖地震発生以前と以降で顕著な変化は認められない。

第1.2.3.4.22図(2) 大飯発電所敷地周辺における現在の広域応力場に関する検討(2)

場所	試料名	走向傾斜	条線レイク	運動センス	破碎帶幅(cm)		評価
					肉眼観察	CT画像	
No.10	10_19.45 m	N19E/60W	-	逆断層	9	-	幅10cm未満 隣接孔でなし(No.33孔)
No.35	35-2, 69.5 m	N17W/85E	10S	左横ずれ、正断層	0	-	変位センスは不明瞭であり、割れ目沿いの条線しか認められないことから、破碎部としては抽出されない。
No.33	33-1 18.98 m	N32E/51W	5N	右横ずれ、正断層	5	-	幅10cm未満 最新部付近の割れ目に沿って、緑泥石/スメクタイト混合層鉱物が晶出。
		N38W/35W	30S	左横ずれ、正断層	60	60	隣接孔でなし(No.12,34,13孔)
No.13	13-1 (36.6 m)	N21W/31W	50N	右横ずれ、正断層	15	6	幅10cm未満 隣接孔でなし(No.33孔) 緑泥石/スメクタイト混合層鉱物が晶出した後の活動は認められない。
	13-2, 40.25 (上面)	N3E/63W	50S	右横ずれ、逆断層	6	-	緑泥石/スメクタイト混合層鉱物が最新面を充填し、 破砕されていない
	13-2, 40.25 (下面)	N3E/63W	45S	右横ずれ、逆断層			
	13-2, 40.32 m	N11W/62W	55S	右横ずれ、逆断層			
	13-e2, 76.48	N39E/44W	45S	右横ずれ、逆断層	0.5	-	幅3cm以下
No.1	1-4 (45.3 m)	N13E/58W	65S	右横ずれ、逆断層	35	14	隣接孔でなし(OK-11孔, No.2孔)
No.2	2-3 82.81	N25E/43W	5N	左横ずれ、逆断層	10	10	隣接孔でなし(No.37孔、既往トレンチ、旧試掘坑、1号 炉基礎岩盤)
No.36	36-1 (48.5 m)	N44W/55W	85S	逆断層	5	-	幅10cm未満 隣接孔でなし(No.4孔)
No.37	37-5 (115.9 m)	N28W/43W	75N	逆断層	5	-	幅10cm未満 隣接孔でなし(No.4孔)
No.6	6-1 37.6 m	N51E/63W	20S	右横ずれ、逆断層	12	<12	隣接孔でなし(南側トレンチ、No.7,4,36,37孔)
南側トレンチ	MT-1-1-1	N6W/74E	0	右横ずれ	-	-	上載層に変位変形なし
No.8	8-2 31.3 m	N44W/80E	25N	右横ずれ、逆断層	10	10	SEMIによる詳細観察により最新面上の粘土鉱物が破 砕されていない、
陀羅山 トンネル	DT2	N19E/80E	73N	右横ずれ、逆断層	-	-	固結
	DT1	N23E/90	40S	逆断層	-	-	固結

・各活動ステージに区分できない破碎部は、18箇所認められた。

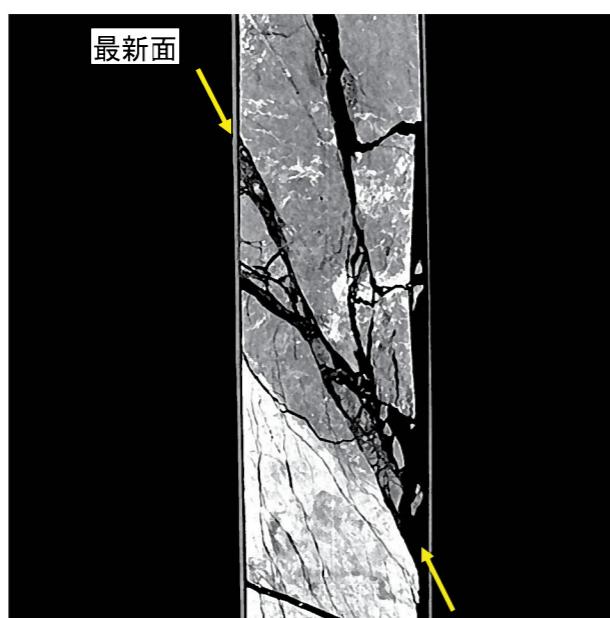
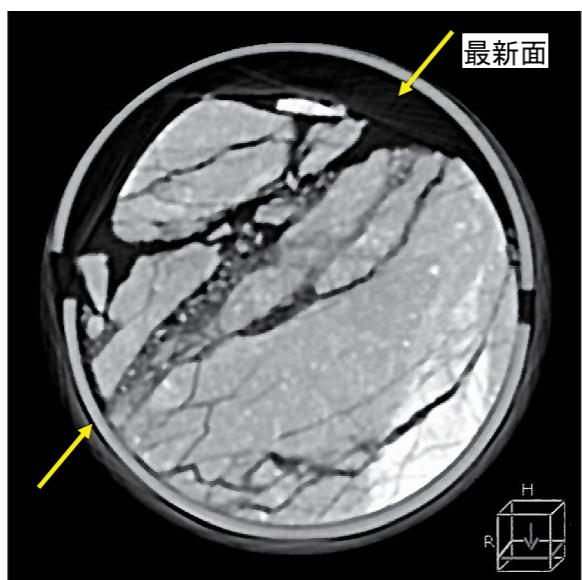
・これらの破碎部については、隣接孔で認められず連続性に乏しいこと、最新面又はその付近に晶出した緑泥石/スメクタイト混合層鉱物が破碎されていないこと、破碎部が固結していること等から、後期更新世以降の活動は認められないと評価する。

【No.6孔諸元】

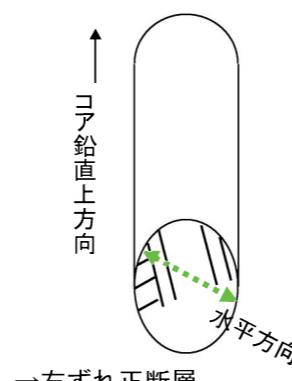
孔口標高:E.L.9.29m、掘進方向:250°、掘進角度:70°、掘進長:120m



※赤下線は破碎部を示す。



CT画像解析の結果、幅2cmの角礫状破碎部が認められる。



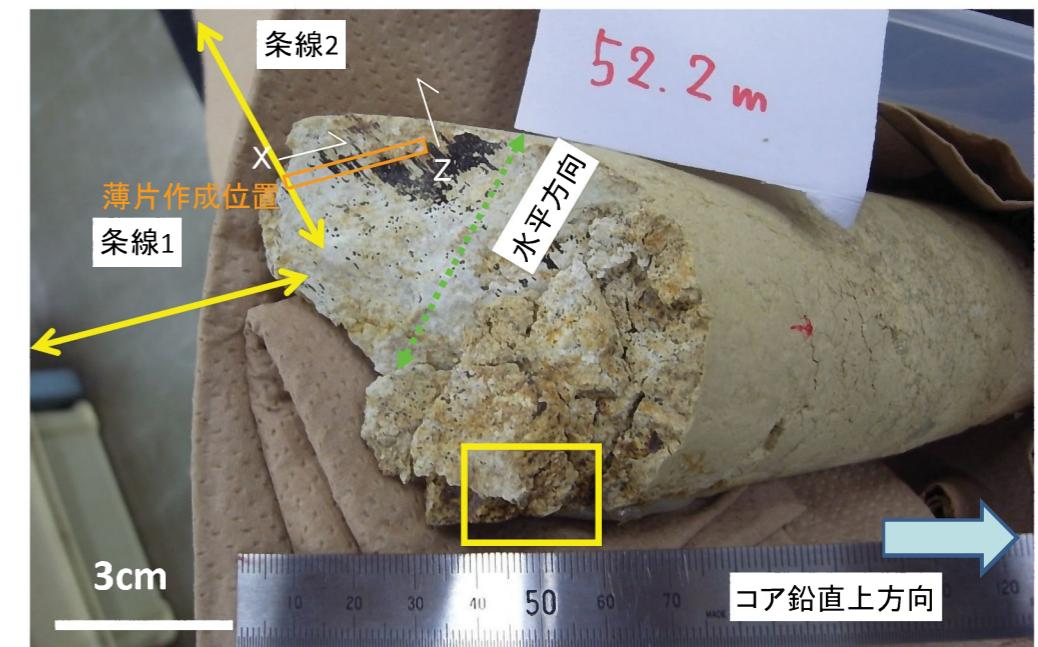
→右ずれ正断層

または

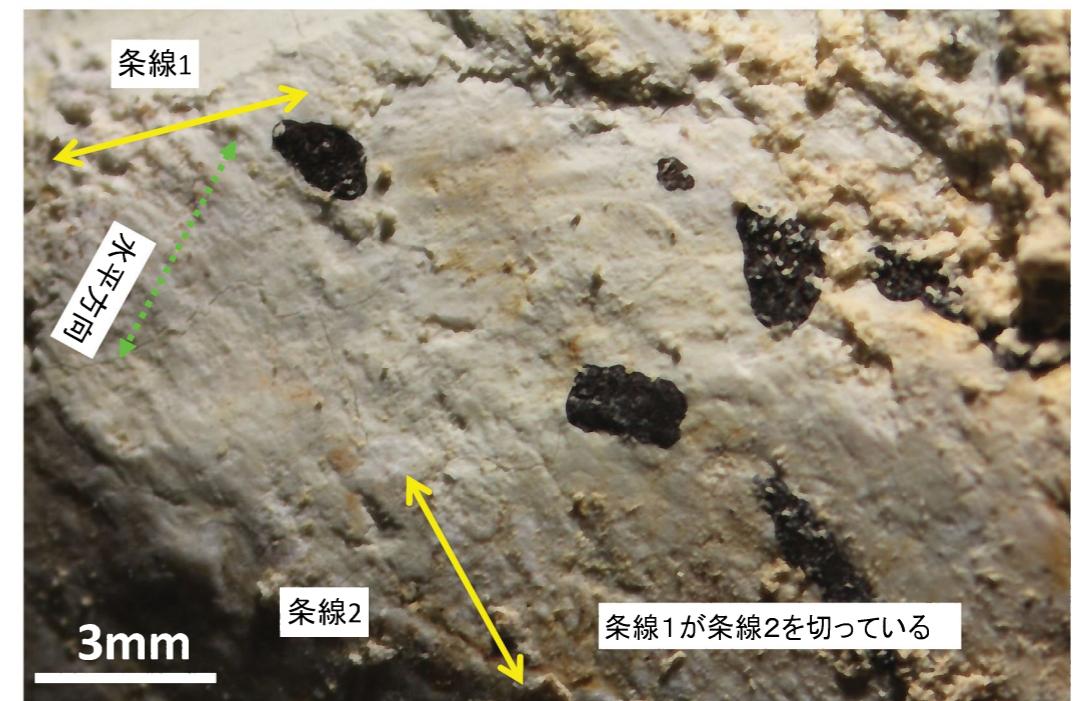
左ずれ逆断層センス  
(条線方向:  
1:レイク48L、  
2:レイク66R)

条線1:ハ-1に対応

条線2:ハ-2に対応



No6 52.20mの断層面(上盤下面)



断層面上に見られる2方向の条線

「ハ-1」に対応する条線1が「ハ-2」に対応する条線2を切っており、  
「ハ-1」は「ハ-2」より新しい